明治三十九年六月二十五日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第百九拾九號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十五日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衞生雜誌

第百九拾九號目次

七月例會告知

來七月七日第一土曜日午後正一時半より神田區一ツ橋通女子職業學校に於て本會の例會相開き候（晴雨共）富士川ドクトルの講話は今回にて一と先づ一段落を告ぐる事と相成候間當日は尤も有益なる點を指摘し併せて前回よりの講義を概括して講話せられべく候間萬障御繰合せ御知友御誘引御來會有之度候也

一疾病の話（終局）　ドクトル　富士川　游君

明治三十九年六月

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんを皆ともに希はざるはあらざれども其身健康にあらざれば此生活を得んといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も／＼衛生の法は一にして足らずといへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惣かざるもの丶如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演説談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して冊子に編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす玆に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸姉に告げ其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を増進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く　會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員生ずるときは會は次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及議員會とす例會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條　毎會學識經驗ある人々に衛生上の講義演説談話を囑託し會員をして隨意聽講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演説等を傍聽せしむるを得但衣服は總て質素たるべきこと●第十九條　講義演説等は男子の傍聽を禁ず●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと●第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算并に庶務の概要會員の増減等を報告すべし●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員 [illegible] 其姓名を支會より本會事務所に報告すべし [illegible] 雜誌を送付すべし [illegible] 寄贈者の姓名 [illegible] 東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金 [illegible] 本會事務所々在の郵便局（牛込築土八幡町郵便扱所宛）振出し [illegible] 小爲替又は郵券にて [illegible]（郵券送一割增）[illegible]●第卅四條　會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

事務所　東京市牛込區上宮比町八番地　私立大日本婦人衛生會

●役員姓名

總裁　東伏見宮依仁親王妃 周子殿下

會長　侯爵鍋島夫人　榮子

副會長　濱尾作子

幹事（いろは順）

幹事　鳩山春子
仝　羽田三緒子
仝　岡田德子
仝　高木かう子
仝　山本多穗子
仝　松平芳子
仝　三浦教子

評議員　石川良子
仝　岩下ゆか子
仝　濱田捨子
仝　長谷川仲子
仝　仁禮壽賀子
仝　四　升子
仝　穗積歌子
仝　土肥多越子
仝　緒方悦子
仝　岡山とし子
仝　小川孝子
仝　男爵夫人加藤鈴子
仝　片山龜子
仝　吉武輝枝子
仝　丹波貞子
仝　高橋孝子
仝　田村きよ子
仝　男爵夫人南部限子
仝　中濱芳子
仝　子爵夫人松井正子
仝　岸　澄子
仝　三宅藤子
仝　宮本樂子
仝　宮下咲子

●支會　千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤

～～～～～～～～～～

本會特別賛成員

（●は本會の爲め講演又は執筆せられし諸氏）

醫學博士　理學博士　ドクトル　醫學博士　ドクトル　醫學博士　理學博士　赤十字[illegible]　內科[illegible]　醫學士　醫學士　醫學士　貴族院議員　醫學博士　法學博士　東京　醫學博士　新潟　小兒科　醫學博士　醫學博士　醫學博士　醫學博士　步兵中佐　醫學博士　醫學博士

入澤達吉君　飯島魁君　伊澤信平君　色川圀士君　伊東祐彦君　飯盛挺造君　伊藤隼三君　石川千代松君　岩井禎造君　石原久君　野瀬雄一君　石原喜久太郎君　濱尾新君　濱田玄達君　鳩山和夫君　萩原彌四郎君　芳賀榮二郎君　長谷川泰君　長谷川一詮君　小原和之君　岡田榮吉君　林春雄君　佐藤達次郎君　緒方正規君　[illegible]內文次郎君　土肥慶藏君　岡田和一郎君

醫學博士　醫學士　醫學博士　一等藥劑官　醫學士　男爵　ドクトル　醫學士　醫學博士　醫學博士　醫學士　醫學士　醫學博士　醫學士　醫學士　醫學博士　ドクトル　醫學博士　法學博士　醫學博士　新潟　男爵　醫學士　醫學士　[illegible]　藥學博士　醫學士　藥學博士　醫學士　醫學士　醫學士　二等軍醫正　醫學士　三等軍醫正　大日本教育會長　理學博士　醫學博士　男爵　藥學博士　醫學博士

大澤謙二君　大西秀治君　大澤岳太郎君　恩田重信君　若杉喜三郎君　加藤弘之君　加藤照麿君　賀古鶴所君　河本重次郎君　片山國嘉君　川上雅盆君　際田勝一郎君　金杉英五郎君　笠原光興君　唐澤光德君　高橋順太郎君　高山紀齋君　高木兼寛君　高木[illegible]三君　田代義德君　田代亮助君　高崎正風君　竹中成志君　高田耕安君　高橋辰五郎君　丹波敬三君　高橋貞研君　田原貞純君　田村光顯君　久保猪之吉君　米山彦郎君　星野篠光君　宮本叔君　橫井忠殿君　辻新次君　坪井正五郎君　長與稱吉君　南部型男君　長井長義君　中濱東一郎君

醫學士　醫學士　海軍中佐　醫學士　醫學博士　醫學博士　醫學士　醫學士　醫學士　岡山　衛生試驗所技手　ドクトル　ドクトル　盲啞學校長　廣島　醫學士　東京　臺灣民政長官　元帝國大學教授　醫學士　文部書記官　醫學士　醫學士　子爵　前軍醫總監　ドクトル　ドクトル　高崎醫[illegible]長　產科婦人科　ドクトル　醫學博士　醫學士　醫學博士　ドクトル　高崎　醫學博士　醫學士　醫學士　ドクトル　醫學博士

黑田玄通君　栗木所勝君　小笠原長生君　村松純三君　隈川宗雄君　栗本東明君　山田敬三君　山田弘倫君　山根正次君　山川春二君　丸山長四郎君　松山陽太郎君　此木信六郎君　小西信八君　小泉貫君　古川榮君　布施正顯君　後藤新平君　エ、ベルツ君　甲野棐君　寺川勇吉君　寺田[illegible]作君　寺田織尾君　秋元興朝君　足立寛君　新井古芳君　富士川游君　土谷余次君　水原漸君　久保誠[illegible]君　佐々木政吉君　淺田次君　朝倉文三君　朝山聰[illegible]六君　秋田太郎君　佐藤三吉君　櫻井郁二郎君　佐藤恆久君　佐伯理一郎君　榊順次郎君

醫學博士　醫學士　醫學博士　醫學士　醫學博士　ドクトル　醫學博士　醫學士　醫學博士　醫學博士　醫學博士　小兒科專門　理學博士　醫學博士　醫學博士　醫學博士　伯爵　醫學士　醫學博士　ドクトル　ドクトル　醫學士　醫學博士　醫學博士　醫學士　醫學士　醫學博士　ミス　ミセッス　ドクトル　醫學士　醫學士　ドクトル　ドクトル　ドクトル

榊保三郎君　櫻井恆次郎君　桐淵鏡次君　北村精造君　北島多一君　北川乙二郎君　木下正中君　北島小太郎君　北里柴三郎君　三浦守治君　三浦謹之助君　宮本仲君　箕作佳吉君　三島通良君　三宅秀君　三輪信太郎君　土方久元君　島村俊一君　弘田長君　川高昴君　須田享樹君　[illegible]川德德君　木村德衛君　森林太郎君　笹川三男三君　波多野惇君　吳秀三君　ヒユース　コーツ　菊池循一君　橋本左武郎君　鳥居春洋君　土川卯三郎君　佐藤延雄君　內山信光君



（左）相川米吉氏夫人會計幹事相川はま子

私立大日本婦人衛生會高崎支會
積善銀行頭取相川藤平氏夫人
副會長相川すか子



私立大日本婦人衛生會新潟支會
評議員八木ゑい子

婦人衛生雜誌第百九拾九號
（明治三十九年六月二十三日發行）

名家演壇

●婦人に望む戰後の經營（於本會）

ドクトル　新井古芳君　演說

私は此處に揭げて御座りまする通り戰後の經營に就て皆樣に御相談且つ御賛成を希ふ次第であります茲に二三の統計を調べて持參致しましたから御覽に入れますどうぞ疑敷處がございましたなら御遠慮なく御質問を願ます

第一表

卅七八年戰役死傷者	
負傷者	二十二萬〇八百十二名
戰死者	四萬七千三百八十七名
入院患者	五十五萬四千八百八十五名

此表は三十七八年日露戰爭に就ての死傷者で負傷者の數が二十二萬〇八百十二名其中戰死者が四萬七千三百八十七名夫れから入院患者が五十五萬四千八百八十五名病死其他合計凡三十萬位の人が或は死んで居るだろうと其筋の人から聞て居ります中々多數の同胞を失ふたので御話するのも涙の種で御座ります加之ならず我が日本では此上にコレラだのペストだの又は地震大洪水等にて每年人勢の數を減少せしむる事が中々多い「皇威揚二世界一」と稱賛せらるゝ膨脹性日本でありますから是非共是等悲しむべき現象を常に補ふて行かねばならぬのみならずどん〱人勢を增殖させねばなりません此の責任は全く今日御集りになつて居らるゝ皆樣にありますので言葉を換へて申せば國民一人として御婦人方の御腹をいためず生れる者はない實に婦人諸姉の責任は洪大なるものでありますこの重大なる責任を兩肩に負ふ日本婦人が新同盟國即ち英國婦人より

第二表

三十四年度調査（1）

不妊婦比較表

	英國	日本
上	10＝1,2	10＝2,3
中	10＝1,0	10＝1,5
下	10＝0,9	10＝1,2

此表で御分りになります通り不幸なる不妊婦の數が多いと云ふのは誠に心細い次第ではありませんか

是れは日本と英國との比較表で上と記してあるのは英國の貴族日本のも矢張り上流の御方々であります

日本におりては十に對して二割三分の不妊婦がありますが英國は一割二分しかありません中が日本にて一、五英國は一、〇下の方は日本一、二英國が〇、九と云ふ比較で英國の中流社會と日本の中流社會を比べて見ますると我が國の妊婦百に對して三人づゝ利益する勘定になり一人平均三人づゝ子供を產むとしても九人殆んど是迄より一割多くの同胞を增殖せしむる譯て國民一年の利益は中々大多數になります

夫れ故私はこの原因及び治療に就ては非常に苦辛を積み研究致して居りますから他日又皆さんに其結果を申上る事が出來ますれば幸ひのことであります

希くは皆樣も益々御養生遊ばし第一戰後の經濟として一人も不妊婦の數を減ずる樣御注意を願ひます

第三表

明治卅四年各國出產死產統計表

國別／各別	人口	出產總數	死產	出產百に對する死產
普國	三四、四七三、五〇九	一、二七八、七一三	三九、九九一	三、一三
墺國	二六、一五〇、七〇八	九五八、五三七	二七、八九八	二、七七
伊太利	三二、四七五、二五一	一、〇五七、七六三	四六、二五四	四、七
佛國	三八、九六一、九四五	八五七、二四七	四〇、七四六	四、七五
日本	四五、四三七、〇三二	一、六九七、〇八〇	一五五、四八九	九、一八

是れは各國の出產及死產の比較表で御覽の通り日本の人口數が卅四年度の調に（以後不明の點多し略す）よれば四千五百四十三萬七千〇三十三出產の總數が百六十五萬七千〇八〇名其中で死產の數が實に十五

萬五千四百八十九名の多き數になつて居ります此の死産と申しまするのは子供が死んで産れたとか或は生れながら死亡したとか兎に角死産として届け出た多數で百に對して九、三八の最多數を現はします佛國などは死産數が日本の半分になつて居りまするが御承知の通り人口増殖論を演説や雜誌で隨分八ヶ釜しく申して居る然るに日本は斯くの如く死産多きにも拘はらず餘り當局者が騒がぬのは矢張り舊來支那尊化時代の遺風ではあるまいかと思ひます私は先年支那の沿岸を通つて見ましたが夫れは〳〵澤山親子兄弟が船に乘りてあちらこちらの海中に一の部落をなして居る其の人々は丸で籍はない只船で生れて船で死ぬと云ふので支那の戸籍には乘て居らない者だと云ふ事を聞た事があるこう云ふ様に幾ら死んでも生きてもとんとかまわぬから戸籍などに至りてはチャン〳〵と支那イのであらう(笑聲起る)私は明治廿五年上海香港シンガポールを經て獨乙に留學し卅年又支那を通りて歸朝致しましたが其時は日清戰爭後で幾分は支那も大ぶ變つて居りましたから日露戰爭後の今日は餘程改進したことゝ思ひます之に反して日本は勿論長足の進歩にて昨今は立派なる民法も敷かれ戸籍も中々嚴重になりましたから死産の豫防法と云ふ事に就きましても追々奬勵さるゝ事と思ひます又さうならねばなりませんなぜならば日本の出産百に對する死産數を九名强として獨乙の死産百に對する三名强と比較する時は一年十萬五千七百七十七名强を増殖さする事が出來二年を經過する時は全く日露戰爭に失ふたる源の數をば殆んど補ふ程の大事業を成すことが出來るのでありますされ故婦人諸姉が戰後第二の經營として忽にすべからざる一大急務であらうと思ひます

是より私は此の豫防法即ち流産及び早産を防ぐ事に就き第一外部よりの障害第二内部よりの障害第三分娩時の障害として其要點を御話致します

(一)外部より來る重なる障害は精神感動で妊婦が强き精神感動より此恐るべき死産を爲したる例

は卅七八年戰争中産科醫の多く見聞せし處てあります尤も通常の精神感動てはさう流産早産等は致しませんが非常に驚くとか非常に喜ぶとか非常に歎くとか兎に角非常の精神感動は此死産を起す原因となります其他物に突當る殊に腹部の打撲又は轉倒力業過分の運動人力車乘馬等は注意しなければなりません短いあいだの汽車、電車は割合に害が少いが轉倒と云ふことは死産の原因となる事が多い同じ轉倒する場合でも後ろに引繰り返つて他の尻又は臀のあたりを強く打ち一時氣絶したとか兩足がきかなくなつたとか云ふても後ろにころんだのでは流産をしない事は屢々ある之れに反して前の方に倒れてはほんの兩手をついた許りだと申す位の轉び樣でも危險なる流産をなす事が多い此轉び方に就ては隨分面白き實見談がありますが餘り長くなりますから略しますそれから強き下痢、過劇の交接、冷水浴、御浴等も注意をしなければなりません

（二）内部より起る重なる障害は既に胎内にて胎兒の死亡せし爲め流産及び早産をなす者で是れが又中々多い或る人の調べには七八十名即百人に對する七八十人は本人又は其主人が既に花柳病に感染して居る結果だと云ふ事を報告してあります又胎兒の畸形なる爲め自活力を失ひ流産するもあり其他母體の重症による者もありますそれは多く高熱强き下痢、咳嗽、大失血等でありますから皆さん御注意が肝要で御座ります

（三）分娩時の取扱

是れは至極必要の事でありますが世間往々御産などは飯前だなどゝ申してとんと六ヶ敷ものとは思はず産婆にても任せて置けば充分と心得安神して居る産婆も亦醫者を呼んでは自分の器量が下るなどゝ誤解して大概の場合は獨りで措置し終に救ふべき子供も悲むべき死産の數に入れ助かるべき母親も驚くべき鬼籍に入るの止むを得ざる事が澤山あります畢竟之等は産婆の罪ば

かりてもなく醫者の罪でもなく全く皆さんが自業自得の罪であらうと思ひますこゝにつけ加へて御注意致して置きたいのは我々婦人科診察所に來る患者の隨分多數は子宮の位置が前に偏寄するとか後に曲るとか或は左又は右とて子宮の位置變常の爲め月經時の疼痛、運動時の腰痛、月經の不正、便通の困難、頭痛、胸窄、消化不良等ヒステリ症を訴へ甚敷は哀れなる不姙症を起して居る此の病は從來醫術の開けぬ時は少くして却て今日醫術が開けてから段々增加して來るのでありますこれは私の考に分娩の際新式の產床を撰むに係はらず產後褥婦に褥產の其後の注意を褥婦にしない爲めであります舊式とは前に炬燵やぐらか踏み臺か又に布團を二三枚疊みて之に寄り掛り產婦は兩膝を立てゝ分娩し產後は矢張り二三週間其儘すはつて居る故膨大したる子宮は幸ひ眞中に收縮します新式では橫臥位仰臥位等何れも寢て分娩し其儘二三週間を經過する爲め膨大したる子宮の自家重力に依り片寢をした一方に曲りて收縮し遂に此の不治症を起すものなり

西洋では勿論西洋館の產床にする故窓が寢臺の頭方にありて光線を室內平行に來り訪問者の多くは寢臺の足部の方より來る都合なれば右側臥又は左側臥と自然の変換をなす然るに日本造りの家屋では座敷の一方が多くは障子にて此方面から光線及び來訪者が來る樣になりて居る故大抵褥婦はこの一方にのみ向ひ寢て居るものなれば遂に此の弊害を起すのであらうと思ひます私は常に子宮の曲り方を見て其の產室の方向を知る事があります例へば南より人の出入すべき產室で御產をした人は何れも枕を東の方にし南方に向て寢安き爲め左側を下にし子宮の收縮は下方になり左側に偏して左轉症を起すのです斯樣に申上げると舊式產床は新式產床より無害の樣なれども大失血、陰門破裂、腦貧血等を起し易

き爲め新式の產床を撰んで以て此產後位置の交換法に注意するを良とす。

斯く申し述ますと此の悲しむべき不妊婦の數を少なくし恐る可き死產の數を減ずるには無論皆さんが皆さんを督勵し醫者產婆と共同一致の行動を取り來る年は何十萬又來る年は何十何萬と云ふ樣に救ふべからざる大切の人命を救助したならば是に勝る國家的大事業は他になからうと思ひます併し此の重任に盡さねばならない婦人諸姉が身體虛弱の爲めにどうしても子供が出來ぬとか又出來ても遂に死產は免かれないとか云ふ樣では夫れこそ國家の大弊害でありますから私は婦人衛生法を三期に分けて其の要點だけでも申上げて置ねばなりません

第一期令孃時代の衛生　一名　娘子の衛生法只今富士川君も茲に居りますが獨乙ではバクフイシと云ふ短い袴をはいて居る處女時代の衛生法に付き中々八釜敷申して居る人がありますが　私は茲に一歩進んてフロイライン即ち令孃時代の衛生法と云ふ事柄に就て申上ます此の時代に注意するのは帶の締め方で西洋諸國でも少しハイカラ的になると夫れは〱コルセットをきつくするのを自慢の如く誤解して醫學上から隨分批評を受けて居ります我日本でも矢張りそれ以上の弊害だ帶から起る夫れは長い廣い厚い帶を强く締るが爲め胸壁の下部及び骨盤上部の發育をさまたげ甚敷はお產に迄其害を及ぼす事がまゝある平素私共の診察所でも餘程八釜敷く注意を申して居りますが中には出來得る限りお腹を少さくさせ自分の手も成るべく小さくしてそれでまた帶の間に手を入れて診察する事の出來ぬ人があります勿論私の手も餘り小さい方ではありませむが（笑聲起る）斯樣に帶を强く締るのは宜しくないと申しても帶が緩いと心持が惡くて堪らぬ抔と苦情を申してとんと改めません殊に神經質の方は帶を締るに恰も角力の廻しでも締る樣に二人掛りでウン〱掛聲にて引締さする樣の人もあるとの事是れはどうも衛生上大變有害であります殊更妊娠した時などは容易ならぬ事

てすから成るべく母親が娘時代に帶を緩く締る習慣をつけて置かねばなりません
月經の注意日本婦人の月經は平均十四年半より三十四五年間持續致しますが此の時代の注意は誠に大切な事で殊に初期月經の場合には是非お母さんとか又は伯母さんが親切に注意すれば差し支へないが若しも不幸にして自分にさう云ふ注意をすべき人がなくお父さんや伯父さん許りて月經の始末も知らず種々の心配事からとう／＼非常の神經持になる實際月經時は輕い產褥と同じ事ですから專ら安靜を守りて走つたり車に乘つたりするのは宜くない夫れを月經時に馬車に乘たり電車に乘り或は湯にも這入る勞働もすると云ふ樣な不養生からしてとう／＼子宮病を起し常に色々の下り物がして止らぬ月經痛がある腰がいたむ足がつれるなど一生涯苦しんで病人と成りて居らねばなりません
乳房の保護と申て乳頭の小さいのは常に自分で按伸して發育を能くし乳の首に決して疵をつけぬ樣腫物の出來ぬ樣心掛けねばなりません人の親となる時は乳が子供の米櫃でありますから實際大切の物であります然るに世間往々母親の乳汁を種々苦情をつけ天理に背いて其愛兒に與へぬ者が追々增加致して參ります私は之に大反對で脚氣乳の外は大概の場合成るべく親の乳を以て育つるのが親にも子にも衞生上有益の事と思ひます
洋食の習慣とはお若い時分から牛乳ソップ玉子と云ふ滋養分を食ひ習はせて置きませんと肝腎の時に向て何一つとして滋養分をとらせる事が出來ず醫者も實に匙を投ねばならぬことがあります甚だしきに至りては御かゆても嫌へだと云ふ人がある是れは病の快復期又は病の治療上非常に不利益であるから娘時代に牛乳ソップ玉子其他總ての滋養料を食ひ習はして置くのが誠に必要であります又常に姿勢を正し適宜の運動を怠たらざる樣心掛くべし
第二期　内政時代の衞生法
人の妻になれば妊娠と云ふことを覺悟しなければな

りません或る人の調べに結婚後一年以内に妊娠せし者七十五名二年以内に妊娠せし者百二十六名三年以内に妊娠せし者百二十六名三年以内に妊娠せし者二十一名四年以後の者は僅に八人しかありません以上の割合に依れば二年以内に妊娠する者が最も多いのであります既に妊娠した場合には更に自分の身體を丈夫にして壯健怜悧の子供を産なければならぬ立派な發明の子供を產には胎內敎育に注意するのが甚だ必要の事であります私は兼て東京産婆學校で敎ゆる生徒に胎內敎育を常に妊婦に注意すれば國家の爲め又自家の爲め非常の利益があると云ふ事を平素話して居ります

○第三期　菽母の衛生法

此時代に於て尤も注意を要する月經閉止期俗に更年期又は癌腫期と申して喉頭癌舌癌食道癌胃癌直腸癌及乳癌等なり殊に我々診局に他の病氣にて來り月經の止る前か此頃少しく月のものが不順てあるか全體私は若き時分より子宮の病は少しもありません抔と平氣で居る人が診察すると月經の止る前處か全く命が止る前と斷言すべき子宮癌腫にて併かも治療の時期が既に遲くなり醫者が引導を渡さねばならぬよが屢々ある故に充分月經不正と云事は御注意を願ひます元來私が今日皆樣に御願申度は第二期內政時代殊に子育の法でありますから是より胎內敎育に戻りて申上升胎內敎育をすれば家庭敎育をせずとも差し支へないか抔と申す者もありますが元來胎內敎育は家を造るに良木を撰ぶと同じ事で家庭敎育にてその木材を適當の場處に割當て學校敎育に依つて始めて組立てらるゝのでありますから何程伎倆ある組立て方をなしても朱檀黑檀タカヤサンと云良木を山程集めても遣ひ方が不當であると人に笑はるゝ材木の分配方は中々功者に遣つて在ても雜木許りては上手に組立てた價値がない良木配材其の當を得ても組み立てに伎倆を用ゐざれば矢張完全の家は出來ぬ故に良木も配材も亦組み立も皆必要のものであります殊に建築は木材にありと申して木質を撰むこと即胎內

教育は誠に肝要缺くべからざるものであります胎内教育と云ふのは讀んで字の如く胎兒が腹の中に居る間自家の潔白を養成し成るべく常に高尚の事を考へ目に觸るゝ物は總て室内の額面掛物に至る迄卑劣、猥褻、の物は取り外して日本で云ふと菅公の額面とか楠公の軸又は忠臣孝子の事蹟を書き並べて其の人物の如何に注目し小說を見るなら內外異人の立志編を讀み兎に角人に聞かせても見られても耻かしくない愉快の生活法をば殊更になす時は胎兒も必ず高尚の氣を受け遺憾なき發育をなす皆さんも御實驗がありましようが母親が風呂にでも這入つて宜い心持になると胎内でも心地宜く動くが自分が不愉快の事があると少しも動かない又は不正なる心持の惡い動き方をする之れは親の氣が胎兒に感應する證でありますす一つ例を擧げて見ますれば總領の馴鹿と云ふて始めて生るゝ子は多くは溫順で惡評しますればボンヤりして居るが次男三男となると活潑でキヨロ〳〵して居ります夫れはどをかと云と總領の出來る時分は

親も始めての妊娠とて多くは里親の許に歸つて自由氣儘にして居る或は舅でもない場合には無據嫁入り先に居るとしても初妊娠であるとて縱の棒を橫にもせず我儘放題に十ヶ月を經過する爲め生れた子供は極めて從順にして溫和に全く曾我兄弟が世上の鏡であらうと思ふそれから次男三男となるとさう幾度も實家へ子供を產みに行く事も出來ず又留守にされぬ信用も出來商賣をする家なら腹が大くなつても帳合もしなければならず金錢の出入も支配も隱然一家の內政を掌る內務大臣此の內務大臣の腹の中で育てられたる子供でありますから生れた曉には自然有爲活潑の者となりますから妊娠中は母親は一層注意しなければなりません西洋の諺に其子を名高き音樂家になさんと思はゞ受胎せる母親が常に音樂を嗜むにあり能き傳導者を得たくば母親は胎內の子供に向て能く傳導せよと云ふ戒言があります夫れ故皆樣が胎內教育に依つて如何なる種類の人でも思ふ樣の性質を受けた子供が出來ます此性質を受けて生れ

た子供に適當の家庭教育及學校教育をなすのは最も必要でありますから分娩後は母親が主任となつて家庭教育をするのであります家庭教育をするには主導者即母親が常に自分の動作を以て無邪氣の子供を導かなければなりません其方法は自から信義を重んじ慈善を行ひ貯蓄節儉の心を養成するのであります其他子供の體勢に就て申ますれば下腹の馬鹿に大きな子があれば頭を龜の子の如く引込て居る者もあり甚じきは常に背中を丸くして走り廻りて歩く子供があります斯くの如き弊害は家庭教育に於て矯正しなければならぬ世の母親たる者は背中を曲げて歩く樣な子供が家族の中にあれば必ず心掛けて直立する事を督勵し一寸でも眞直にして居ると賞め或は褒美を遣ると云ふ方針を取るのが必要です子供と云ふ者は何にか褒美でも遣る樣にすると隨分苦しい事でもよく仕遂ぐる性質を持て居ります賞る時は食物や玩具は成るべく與へず金錢を與へる樣にし其金錢は直に貯金の箱に入れさせる貯蓄箱は毎年一二回開いて一々其金高を子供に話し殖やすと云ふ事を賞勵して銀行にあづくる時は何程大金になつても一向差し支へもなく癖も直り金もたまる貯蓄心も發達する誠に一擧三德と云ふ便法ではありませんか(笑聲起る)夫れから學校教育は勿論學校の方で責任がありますが猶家々でも充分注意しなければなりません

終に臨み一言申上げますが彼樣に皆さんが各自衛生法を重んじお身體が丈夫になれば必ず壯健の子供を澤山孕む其子供は胎内より學校教育に至る迄こと〴〵く賢母の訓陶を得る樣にしたならば若し又今後世界に如何なる戰爭が起つたとしても第二の東郷さんや大山さんと云ふ樣なつよい方々が澤山產れ連戰連勝は日本人の特有性と世界の人に歌はれる樣な愉快の日本となり恐れ多くも上　天皇陛下の御心を安んじ千代も八千代も萬代に榮へる御代の民として婦人衛生會會員諸姉が益々御奮勵あらん事を御願ひを致します

第四表

	人口	出産總數	死產	出產百ニ對スル死產
東京	二三三、二六七七	六、四八七八	五八六二	九、〇七
大阪	一八二、三四五六	五、四九〇九	四八六七	八、八六
京都	一〇五五一一九	三、四七二七	三五三二	一〇、一四

明治卅五年度三府出產比較表

出產百ニ對スル死產數ノ最多キ地及最少キ地

茨城	一八、七六
埼玉	一五、六四
鹿兒島	一、七二
熊本	一、六六

三府結婚離婚比較表

			千ニ對スル數
東京	結婚	1.5810	6.24
	離婚	2611	1.03
大阪	結婚	1.1830	6.49
	離婚	1613	0.88
京都	結婚	8500	8.00
	離婚	1150	1.00

茲に尙ほ一枚統計表が殘つて居りますから序にこれも御覽に供します此の表は三府の出產死產の表と結婚離婚の比較表及全國にて最も死產の多き國と最も少き國とを比較した表であります

日本の首府と御膝元と威張て居ります東京の死產數が大阪より多いと結婚數が一番少いのと離婚の數が一番多いのは何れも誠に殘念の事で今後の方針上皆さんの御一考を煩はさねばなりません

寄書

●結婚年

醫學士　竹中成憲君

英國のフール、エージ Full age 即ち獨逸語のフォル、イエーリヒカイト Volljaehrigkeit 何れも「滿年」といふ意味にして法律上英國に於ては二十一歲を以て「滿年」とす之を算するに當ては誕生日の前日を以て滿一年とす卽ち一月一日出生のものは十二月三十一日の早朝を以て滿一年となるの計算法なり

英語のピユバーチー puberty 獨逸語のマンバールカイト Mannbarkeit は「成熟」にして支那語にては「成丁」又は「產育年齡」と譯しあり

我民法に在て能力上は滿二十年を以て『成年』とす(其第三條)

羅馬法に於ては男子十四年女子十二年を以て『成熟』とし二十五年に達するまでは後見人 curator を附せり目下羅馬法の要所を墨守するものは『スコットランド』なりとす該法は元來人生を四期に分てり

一、第七年の末までをインフアンチア(幼稚)

二、幼稚及び成熟の間

三、成熟及び成年の間をアドレスツェンチア(幼年時、小時)

四、第二十五年以後の男子を『成年者』(マヨーレス)とす

英法は人生を二期に大別す

一、『インフアンシー』(未成年)第二十一年迄二十一歳に達すれば國會議員となる事を得

二、『マン、フード』(成人、成年)女子は『ツイマン、フード』(支那語にて之に達するを『年及笄』といふ『及笄之女』なり)

佛國に於ては二十一年を以て「成年」とす『コード、ナポレオン』に據れば結婚年齢は男子十八歳、女子十五歳なり

獨逸にては州に據て多少の差あれども概して二十四歳を以て成年とすババリア、サキソニー、ウユルテンブルヒ及バーデン州に於ては二十一歳とす

米國合衆國に於ては三十五歳にあらざれば大統領となるを得ず國會議員は二十五歳にして可なり

生殖器成熟の女子は四週間に一回血液を漏泄す哺乳動物に在ては此期を『游牝期』といふ此現象あるものは即ち生殖器の成熟せるを示すものにして此の女性は何時たりとも『母』となる事を得るもの也之を初發するの年齢は氣候と相關するものにして暖國に於ては早し我日本に於ける平均年齢は十四歳と十五歳の間にして十四歳八ケ月なりとす我國に於て法律上の結婚年齢は男滿十七年女滿十五年(我民法七百六十五條)娼妓は滿十八年にあらざれば許可せず

早婚とは此年齢に達するの前又は此年齢に達するや

否や直に婚を結ぶの謂にして未開國に於ては今日尚盛に行はる我國に於ても貴族、富豪は未此風を脱せず就中我沖繩縣に於ては早婚普通にして父、中學の學生にして其子、小學の生徒たるを常例とし文明國に於て早婚少き否、寧ろ、晩婚に過ぐるの傾あるは生活困難なる事其主因たり醫家一般に早婚の弊を論ずるも予は其左まで憂ふるに足らざるものたるを信ず法律に於て結婚年齡を規定しあれども各自此年齡に於て同一の體格を有するものにあらず同年齡に達するも身體尚薄弱なるものあり就中貴族、富豪の家庭に然る者を實驗す此薄弱なる者は素より結婚を延期するを以て利益とするも其然らざる者即ち强壯なる者に在ては此年齡に於ける結婚を以て正當となすに躊躇せざるなり

故福澤先生曾て『早婚必ずしも害あるに非ず』と題し物されし事あり中に害なきの例として左の如きものあり

△藤原關白忠實は八十五歳にして薨去其子忠道を產みしは二十歳のとき忠通も亦六十八歳にして薨去したり

△平忠盛は十九歳にして清盛を生み清盛は二十歳にして重盛を生みたり

△北條時政が政子を生みしは二十歳のときにして義時が泰時を生みしも亦二十齡のときなり

△徳川家康の祖父清康は十六歳にして廣忠を生み廣忠十九歳其夫人十五歳のときに生れたる子は即ち家康にして家康は十八歳のときに世子信康を生み其後子孫繁昌して大坂陣に出馬のときは子も孫も之に從へり

先生之に加へて曰く

△自身の祖母は十五歳のとき一女を生み翌年十六歳のとき又一女を生み二子共に壯健、格體甚だ逞しく共に七十歳の壽に達し其長女の腹に生れたるは即ち諭吉なり云々

成憲曰、以上皆呼年なれば滿としては更に一年餘を減ずべし

生理學上より視るときは男子の體重は四十年に至て高點に達し女子に在ては三十年に至て身長完全するも體重は未だ然らず

之に據て之を觀る時は男女共に發育の完成を俟て始めて婚を結ぶとせば約四十歳に到達するを俟たざるべからず

西洋に於ける事實上の男子結婚年齢の多くが殆んど四十歳なるは此體格完備を俟つにあらずして此年齢に到らざれば獨立生計の道を得る事能はざるに因る曾て偉人と年齒を集めたるものあり之を思へば思半に過ぐ即ち

△一の谷の敦盛は十六歳
△賤ヶ岳の福島正則は十七歳
△保元の亂の爲朝は十八歳
△平治の亂の義平は二十歳
△大坂陣の木村重成は二十一歳
△平治の亂の重盛は二十二歳
△賤ヶ岳の淸正は同年
△四條畷の楠正行は二十三歳
△一の谷の畠山重忠は同年
△信濃略取の日の武田信玄は同年
△關ヶ原の淺野幸長は二十四歳
△小牧山の伊井直政は同年
△前九年役の源義家は二十六歳
△宇治川合戰の源義經は同年
△太閤小田原攻の伊達政宗は同年
△刑死の日の橋本左内は同年
△擧兵の日の木曾義仲は二十七歳
△桶狹間の織田信長は同年
△刑死の日の雲井龍雄は同年
△害に逢ひし日の護良親王は二十八歳
△刑死の時の吉田松陰は二十九歳
△病死の日の高杉晋作は同年

予は思ふ男子たる者は滿二十五歳に到るまでに終身の方向を定め自活の道を收得し此年に於て婚を結ぶべしと女子は滿二十歳を超へざるを可とす（完）



大家談叢

實驗上の育兒（前號續）

●母親の失策

醫學博士　瀬川昌耆君講話ノ內

▲果實類　哺乳兒時代に於ける營養法は母親なり或は保育者なりしが周到綿密に注意して違算なき樣保育しなければならぬ、殊に食物を與ふべき期に及べば尚更深き注意を拂はねば消化機を害する故齒牙の生へ揃ふ迄は咀嚼を要する食物は與へぬ樣にしなければなりません、果物類は林檎でも梨子でも必ず煑て與へるやうになさい是れは一寸面倒であるが生の儘ては往々疾病を釀す媒介になります

▲粉乳　夫れから序にお話し仕て置くのは粉乳て御座います、之れも人工營養の一ッてはあるが何うも腐敗し易いので閉口します、のみならず之れを溶く時も全く良く溶け盡らぬ事があつて隨分割合に面倒な手數を要するもの故勞して餘り効のないもので御座います

▲食物失敗の實例　哺乳兒時代の食物に就いて或る婦人は斯ういふ失敗を取りました、夫れは前にも詳しく申して置いたが食物を與ふべき時期になつても未だ食物を與へず、乳汁許り飲ませて置いた爲め小兒が滿二ヶ年に及んでも相變らず食物を嫌ひ乳汁ばかり要求し決して外の食物を見向きもせず、色々の方法を取つても効を奏する事が出來ぬてありました、此婦人が私の許へお尋ねになつて此事を逐一お咄しになり、扨何うしたら小兒が食物を欲するやうにならうか、又乳汁許り與へ置いても害のないものてあらうかと云ふ事を御相談に及ばれたのてあります

▲蒼白色が良き證據　ソコデ私は斯ういふお答へ

を致したのです『滿二ヶ年にもなつて乳汁ばかり與へて置けば必ず小兒の發育を害する事は當然の事です、既に生齒時代に及へば齒が生へるこれは食物を要する爲めの明かなる證據であります、然るを滿二ヶ年になる迄乳汁のみで置けば充分の營養が取れないから決して完全な發育は遂げられません、論より證據でず御覽なさいお子樣の顏色は蒼白色ではありませんか左ういふ弱々しいのも詰り食物を與ふべき時期に適當な食物を喰べさせなかつたからであります、夫れ故早速斯ういふ方法で喰べ習はせるやうになさい

▲大人と食卓を共にせよ　其方法と云ふは斯うするのです、先づ第一に小兒をして食物を望む念慮を起させなければならない、夫れ故大人の食事する時は必ず其の小兒を側へ連れ來つて大人の喰べる處を見せ、如何にも旨さうに喰べてお見せなさい、乳汁から食物の方へ味を移させるには何うしてゞ此方法に限ります、既に斯んな惡い習慣を付けた以上は他から誘導しなければ幾ら母親一人で勸めても應ずるのではありませんと申聞けたら此の御婦人も早速お宅へ歸り實行して夫れから二三日目にトウ〳〵此小兒は食物を喰べるやうになつたさうです

▲衞生上の基本　今度は哺乳兒時代に於ける一般の取扱方をお咄し致さう、是れも哺乳兒の營養と同じく保育上頗る大切なことと故何うか充分御會得の參るやうに願ひたい先づ其の取扱上から云ふと哺乳兒の身體を清潔にすると云ふ習慣を養成しなければなりません、一體衞生の基本は何にあるかと云へば即ち清潔にあるので、此の習慣は必ず初生兒時代から養成させなければならぬのです、身體を清潔にするには入浴が一番大切なことで、風呂に入つて身體の不潔を洗ひ流し垢を落すのが清潔の眼目にかなう好手段であります

▲入浴は清潔の第一義　故に初生兒時代から哺乳兒時代に移つた百日迄頃即ち生後百日目位迄は必ず毎日入浴をさせなければなりません、是れは初生兒時

代に於ける養育法の時既にお咄し仕て置いた筈ですから御承知でもあらうが、淸潔と云ふ上から何念の爲に玆に申上げて置くのであります、夫れから百日以後になれば何うであるかと云ふに、毎日入浴させずともモハヤ隔日位でも差支へ御座いませんソコで分けても淸潔を要すべき箇所は頭髮、夫れから股間并に腰の周圍であります、斯ういふ箇所は石鹼で丁寧に良く洗つて遣るやうになさい、股間や腰の周圍は大小便の爲めに兎角不潔に陷り易きものであるから淸潔の上から云へば取分け注意せねばならぬ、併し股間や腰の周圍の不潔になることは誰も御承知であらうが頭髮は稍もすれば不潔にさせて困りますのみならず頭を石鹼で洗つては惡からう抔と詰らぬ事を苦にする方があるけれど夫れは全く心得違ひてず、頭部へ發る腫物などの媒介は多く不潔から起ります故頭髮の淸潔を保つ事は是亦必要なことであります

▲初產婦と襁褓　股間や腰の周圍を淸潔にするには入浴させる許りでなく最初から不潔にならぬ方法を講じなければなりません、夫れには母親は小兒の大小便を促して出來得る限り襁褓に放出ぬやうな手段を取らなければならぬ、爾うすれば左程兩便の爲めに不潔も釀さないのです、然るに初產婦の如き未だ育兒の事に手慣れぬ無經驗な母親は多く襁褓の厄介にのみなつて大小便を虎子なり、又は一定の場所なり放出ることが出來ないのです、甚しきに至つては生後半ヶ年位襁褓をもつて大小便を取るやうなお方を隨分見受けるのであるが是れは實に小兒の衞生上宜しからざる事で、之れが爲めに身體に色々な故障を起す起因になります、ケレども初生兒時代は身體に取止めなくグニヤ／＼ですから何うも臀部を顚はし兩足を握つて大小便を促すのは慣れぬ母親は困難で氣味の惡いやうな感じが起らうが夫れは斯ういふ方法があります

▲感心せぬ習慣　小兒が生れたらお七夜迄の間に是非大小便を放出ないと「げしやう」が惡くなると古

の老人抔は申します、夫れ故姑さんでもお在る家庭では早くから小兒に小便や大便を放出まして成可く襁褓を汚させないやうにいたさせます、誠に之れは衛生上淸潔を保つ上から見ると結構なことです、のみならずお姑さんなどは夫々育兒の經驗もあればグニャ／＼な取留めないやうな身體の初生兒でも上手に手際よく放出ますする、ケレども從來日本で大小便を放出る習慣法では餘り感心いたされません、尤も虎子の上で放出るとしても手慣れぬ初産婦のお方などには尙更可憐らしいやうで、脚部がもげて仕舞はせぬかと云ふお考へが起りませう

▲不便なる虎子　夫れ故是非屎糞を放出る方法を改良しなければならぬのですソコで私も何うか危險のないやうな方法にしたいものだと種々と工夫を凝しました結果、斯んな仕方にいたして放出る事にいたしたのです、お七夜の經たぬ小兒でも此仕方なら出來るのですが便器が從來の虎子では餘り高さが高過ぎて困ります故、先づ便器は鐵葉の金盥が是迄の實驗中では簡便で適當して居つたのです、併し充分經費を惜しまずに適當な便器を造らへれば夫れに越したことは無いが鐵葉の金盥でも不便は左して感じません

▲改良せる兩便の放出法　便器の準備が出來ましたらいよ／＼兩便の放出方で御座いますが、夫れは母親が正しく座つて居て、金盥の便器は右の膝頭より右方へ接して斜に置き、小兒は右方の膝頭へ臥せ背部は左手の掌で支え、右手で小兒の兩脚を支へつゝ股を開かせるやうにするのです爾うして兩便は金盥の便器へ受けるやうな趣向にすれば、少しも危險なく無經驗な手慣れぬ母親にも容易く實行する事が出來得るのであります、此方法で生後お七夜前から心懸けて放出ことになさい、股や腰のまわりの淸潔を保たれ襁褓を屢々洗ふ手數も省け、衛生上にも大層結構なことであります

▲三角襁褓　次に襁褓に就てお咄し仕て置きたいのであります、之れには歐米の家庭でも隨分困難して

さま〳〵苦心して居るが何らも充分な良法がない、西洋では三角襁褓を使用して居りますが日本でも大分之れを用ゐる事が習はされて居ります、去れど三角襁褓も日本の襁褓も實驗上左程甲乙はありません、夫れ〳〵特長もあれば缺點もあります

●乳の粉の害

▲乳汁の代用にならず　哺乳兒營養の事に就て未だ民間に流行して居る乳の粉の弊害を申し殘しました、其事を少しく説明いたして置きませう、母乳なら素より申分はありませんが小兒によつては牛乳を飮ませぬものが往々御座います、斯ういふ場合には隨分保育に困難を感ずるもので、何うしたら宜らうかと思案に窮する事があります、スルと素人考へだと多くは乳の粉を勸めるのです「昔から乳汁の少ない小兒には乳の粉を飮せますから夫れが宜しいでせう」と云ふやうな事は私は屢々耳に致すのです、然し是は決して乳汁の代用になるべき營養物ではありません、生後五六ヶ月の頃は決して澱粉質の消化すべきものではありません、然るに乳の粉は澱粉勝ちのものですから素より哺乳兒に用ゆべきものではなく之れは全く世俗の誤解で未だに其習慣が失せないのであります

▲一種の滋養製材　夫れでは生後七八ヶ月の頃になり少量づゝ食物を用ゐる時期になつたら乳の粉でも差支なからうかと云ふに、此時代になつてもお止め申します乳の粉斗りで牛乳の代用など思ひも寄らぬ事で、小兒が滿足に營養を取つて發育する理由はないのであります、ソコで何うしても牛乳を飮まぬ小兒であつて生後七八ヶ月以上を經過し滿一ヶ年乃至二ヶ年の頃の小兒には一種の滋養製材があるので、夫れはネストレ氏の小兒粉とかメレンスフードの様なものです、之れは蛋白質とか脂肪質とか澱粉質とか云ふ營養になる材料を混和して製材したものであるから乳の粉などに勝ることは幾倍か知りません、何うしても日本從來の乳の粉は牛乳の代用どころか唯今も申す通り五六ヶ月の哺乳兒には斯ういふ澱粉

質は決して消化せぬものですから、母親は斯る誤まられた説に再び迷ふやうな事を仕出かさぬやう呉々も御注意申のです

▲断然乳の粉を止めよ　併し乳汁は不足であるし、折角飲ませやうと思ふ牛乳は飲まず、火の付くやうに小兒に泣かれる時は何うして宜いのか實に當惑するであらうと云ふ事はお察し申すのです、斯んな時に乳の粉を飲ませて御覽なさい、他から心付けられると一時の苦しまぎれに、一寸飲ませて見る氣になるものです、殊に小兒が其の乳の粉を溶いてやれば喜んで飲みでもしたら何うも夫れを止られなくなる御様子ですが、夫れは飛んだ心得違ひの事で、乳の粉を與へるよりも別に他の方法を求めなければなりません、色々の方法を取りかへ引きかへして牛乳を飲ませて見るとか、或は煉乳に取換へて見るとかして小兒を孰れかになじませる工夫をしなければなりません、尚ネストレ氏小兒粉やメレンスフードの如きは哺乳兒が他の食物を與ふる時期になつたら母乳なり牛乳なり飲せる間に用ても夫れは一向差支ありません

●襁褓と腰卷の改良

▲日本風の襁褓　西洋風の三角襁褓は安全針で合せ目の端を止めて置くのであるから日本風の襁褓のやうに、しだらなく落ちて綴下て來るやうな醜くい態はありません、ケレども何うしても三角襁褓は小兒が股のあたりに窮屈を覺える様子で私は多く日本風の襁褓を用ゐました、小兒を保育する上には色々經驗も仕て、苦心改良いたしましたが、此の襁褓ばかりは完全した良法に就て未だに工夫を凝して居るやうな次第で、いよ／＼改良の實効を擧げたら又お咄しする時機があらうと思ひます

▲從來の腰卷は害あり　斯ういふ場合があるものだから這ふ頃になると襁褓を當てた上を更に紐の付きし腰卷で包んで紐を堅く締め、斯うして小兒が這ひ出しても襁褓の落ちぬ様にして置きます、去れども此の方法は決して贊成いたされませんナゼならば此の

腰巻は多く小兒の胸の邊りで紐を締めるやうになりますから、着物の附紐を發育上の弊害を醸すと一般に此の襁褓も胸廓の發育を不完全にする起因となるのです夫れ故腰巻の紐は是非改良を要するのであります

▲小兒腰巻の改良法　其改良の方法は腰巻の紐を付けないで腰巻をグルリと巻いて合せ目は釦留めに仕て置くのです是れは襁褓の厚さ薄さによつて釦の位置も變りませうが斯ういふ場合には釦を二ッ付けて置いて堅さ、緩さを斟酌するやうになさい又左もなくば合せ目を安全針で留めて置く方法でも宜しいのです、先づ斯うすれば紐を付けずとも其の代用は出來ましたらう、去れども斯うした許りでは緩み勝ちになつて、小兒が這ひ出すと矢張り腰巻が緩下て落ちますから困ります、夫れを防ぐには腰巻を襦袢にくゝり付ける方法を工夫するので之れも釦で襦袢と腰巻と双方を留めて置けば、別に緩下落るやうなこともなく、是迄の經驗上誠に手都合よく參つたから何うぞお試し下さるやうに願ひたい、併し小兒の兩便は母親には大抵其時間の見計ひの付くものなれば、其頃の時間を見逃さずにさせる習慣を御付けなさい

●襁褓の扱ひ方

▲フランネルと襁褓　襁褓の扱ひ方に就て尚申上げて置きたい、夫れは襁褓と襁褓との間へフランネルを襁褓の大さに切つて挿入して置くことです、斯うすればヨシや兩便を襁褓に受けても深く透して汚れません、手速く始末をすれば、フランネルで汚れを防ぎます併し此位の事は私の改めて御注意申す迄もなく世の母親は大分御實行なさるのを見受けますが、中には矢張り油紙や布團を襁褓に當て置く方もあるやうですから夫れよりはフランネルを今お話し仕た方法にする方が可いから念の爲め御注意致します

▲男の兒と女の兒　夫から襁褓の當て方ですが男の兒と女の兒とでは濡れ方が違ひます、先づ男の兒な

ら前が餘計に濡るから襁褓を特別に前へ厚く當てなければなりません、女の兒は後が多く濡れるから、之れには襁褓を特別に後へ厚くあてるやうになさい、一寸一ヶ處汚れても其襁褓は全部洗はなければならぬやうな手數がありますから斯ういふ方法も詰り手數を省く一ッと信じます

●哺乳兒の衣服

▲後紐の締めかた　一體哺乳兒の襦袢にはおくみは付かぬ譯のものであるけれど肥つた哺乳兒でも前が合ないからおくみを入れて裁縫へると可いのです、着物も哺乳兒時代は無論一ッ身で足りるし生後百日目迄位は後紐ですが夫れから後は前紐にしなければなりません、附紐には非常なる弊害の伴はれるもので、哺乳兒の衣服に就いては先づ第一に附紐の改良をする事が大切で御座います、後紐を締るときは大抵哺乳兒を寢せて置いて締るのですけれど、寢せて置いて丁度好く締めたと思ふと起してからきつくなります、是れは大人のお方が自身お試しになれば良く分ります、寢て居て丁度好い加減に紐を締めて夫れから起つて御覧なさい、屹度きつく感じますから、哺乳兒の後紐を締るのも夫れと同じ事です、であるから寢せて置いて紐を締る時には手の掌の入る位ゆとりを付けて締るやうになさい、爾うすれば起してから別にきつくなるやうな憂ひはありません

▲帶溝　後紐の締めかたは之れでお分りになりましたらうが兎角弊害の伴ふのは生後百日目位から附ける前紐で御座います、前紐丈は是非改良して貰ひたいと思ふ、夫れのみならず附紐は胸のあたりを締めるやうになり丁度乳の下をくびれさせて仕舞う此くびれが即ち帶溝と云ふので附紐の爲めには往々斯ういふ弊害を醸します、扨前紐の附け方に就いて改良の方法は次ぎにお話し致しませう

●腹掛と共寢

▲薄弱なる皮膚　私は哺乳兒時代の小兒を育てるには決して厚着をさせまい、厚着の弊害を醸さぬやうに腹懸けも、股引も或は頸巻きも一切使用ぬこと

にいたしました足袋も成る丈はかせません、處が却つて其方が小兒の身體が丈夫で鼻風邪も碌に冒いたことはありません、總べて小兒に着物を着せたら折々肌へ手を差入れて御覽なさい、肌がシットリして汗ばんで居るやうなら着物を餘計に着せ過ぎるのですから早速薄着にさせなければなりません、と云つて極端に脫せ過ぎると夫れこそ風邪を冒く基になりますから、脫がせるにしても氣を付けるやうに願ひたい、夫れから肌のシットリして居るのは皮膚の强壯を妨ぐるもとで、皮膚が弱いと風邪を引き易いから此邊は衞生上是非母親の一考を煩はさなければなりません

▲腹懸けの利害　腹懸けと云へば無論腹へ懸けて置かなければ其の効を認めることは出來ますまい、是れは私の申す迄もなき事ですが、小兒の腹懸けは整然腹へ當つて居ることは稀れで多くは胸部の方へあがつて仕舞ひ少しも腹懸けの役に立ちません、役に立たぬ許りてはなく腹懸けの爲めに却つて胸部を締付けられ、役に立たせる筈の腹懸けが反對に發育を妨げるやうな次第になります、詰り哺乳兒時代の腹懸けは害多くして衞生上の利益は無いものと云はなければなりません

▲共寢の利益　夜分母親の共寢をすることは本來正式では無いのです、去れど哺乳兒時代には小兒一人で寢せて置くは、餘程注意しなければ動もすると身體が冷え風邪を冒かさせる許りで無く、嚴寒の氣候などには凍えさせて仕舞ふやうな悲慘を醸すに至ります、夫れのみならず母親が授乳するせつには自分が寢床から出るか、左もなくば小兒を自分の床へ連れ込まなければなりません、其の都度々々必ず母親なり、小兒なり何方が身體が冷えてナカ〱不便極まるし、極寒の時には夜中再び暖まらうとしても暖まる迄には容易でなく、漸く暖まらうとすると又小兒が眼を覺して小兒も母親も冷えるやうな次第、夫れが毎晩の事になると小兒にも母親にも終に身體に障るやうになります、夫れ故私は變則ではあるけ

れど哺乳兒時代には小兒一人で寢せる事を止め、却つて母親と共寢させるのが利益多きことゝ信じて、常に此說を主張いたして居ります、尤も手の多い萬事に不足ない家庭では正式に行る方が可いのですが、手不足の中で親子別寢をするのは却つて不測の害を招く事がありますから此邊は充分斟酌し餘り理屈に計り拘泥せず夫々家庭の情實も考へられるやう變則ながら私は殊に共寢の利益をお話し致して置くのであります（つゞく）

●神經衰弱の豫防法　（前の續）

狩野病院長　狩野謙吾氏談

▲（三）手後れとならぬ中に　肺結核と云ふものは恰度お正月搗く豆餠の樣に肺の處々に豆の樣なころ〳〵が生じて病氣が惡くなると其結核が四つも五つも將た十も集つてそれが腐れ最も重いのは肺の三分の二も腐れる、中には病的變化が著しい程に容體に著しい變化を起さないのもある、五六日前迄咳嗽をしながら學校に通つて居た者が急に惡くなつて仕舞ふのなどは即ち夫であります、斯樣な人を解剖して調べると左迄大病な容體にも見えなかつたのに案外にも右の肺は三分の二も、左の肺は三分の一も腐れて居る抔の事があります、柱とか壁とかならば腐れた場合に取換へる事は譯もない話であるが生きものはさうはいかない、されば一刻も早く醫者にかゝる樣にしなくてはならないが扨て世間の實際はさうではなく病勢が餘程進んだ時醫者にかゝりやれ全治しないの醫者が下手だのと彼是言ふがそれは言ふ方が無理で醫者の下手でも何でもない實を言ふと手後れとなつたので醫者も何うも致方のない譯、兎角泥棒を捕まへてから繩を綯ふのが世の習ひ、同じ飲食をするにも藥よりは酒、滋養物よりは團子が先きで病氣の輕い間は養生も衞生も心には留めず半分醫者を馬鹿にして居る、御本人が是れではと氣が付いて困つた時の神賴み急に醫者に頭を下げる時は早病勢が餘程進んで棺桶に半分手をかけて居る樣な次第

て幾位養生しても療治しても病の働くには追附かず結局前に述べて置た通り消耗を起すの原因たる營養損害が劇しくて醫者も藥も役には立たない、夫であるから手後くれとならぬ中早く醫者にかゝりよく醫者の言ふ事を守り後悔ない樣に療治專一に勤めないといけない、斯くしたならば結核決して恐るゝに足りませぬ。

▲(四)無益な煩悶　世は樣々、前述べた樣に病を輕忽にする人があるかと思へは一方には又餘り病を重く見過ぎる人がある、此方は病の秤量を誤り無闇矢鱈に煩悶して惱まずともよい神經を惱めてありもせぬ容體を拵へて醫者よ藥よと騷ぐなど是も亦困つたもの、例令ば胸筋レウマチスで胸が痛むと早計にも肺病ではあるまいか、醫者の診斷が間違つては居まいかと心配の絕間がなくそれが昂じては睡眠を妨げ其爲汗が出る、すると盜汗が出たテツきり肺病だと獨りで定めて仕舞つて專門醫がさうでないと言つても承知せず、不安の餘り二人も三人も醫者に診斷を求める、すると中には今一度診斷せねば判然せぬとか何だとかと銘々に何か並べ立るから病人は愈肺病との念を高めて心配が一層增して自然身體も弱り神經も衰へ從つて病勢も段々に進み最初輕いレウマチスであつたのが眞の肺病となつたり或は又神經衰弱となつたりするとは憐れな話、尤も神經衰弱の爲肺の呼吸力が弱くなるのもあるから肺尖カタルの恐れがあるとか或はそれの初期であるとか云ふのが神經衰弱の治療の傍治した例は多くあります、兎に角煩悶は實に無益な事、何も其樣に騷ぐには及ばぬ心を靜にして信ずべき醫者にかゝるがよろしくあります。

▲(五)傳染病　傳染病中神經衰弱の原因となるのは腸窒扶斯、流行性寒冒、麻剌利亞等が主なるものであります。

▲(六)腸窒扶斯　是は昔傷寒と云つたもので傳染すると云ふ事は一向知らず神の祟りとか蛇の祟りとか許り信じて居つた其次第と云ふは並の熱病より

は譫言が劇しく中には酒亂同樣に亂暴する者があるから是は病氣許りでなく外に祟りが附いて居るものと信じ切つたものと思はれる、今日となりては此病氣は黴菌に原因し、さうして其黴菌は食物と混つて腸に入り腸壁に做衝るものであると云ふ事が確然と知れて居る、扨酒亂の樣になつたり譫言を言つたりするのはどう云ふ次第かと云ふに一體どの熱病でも多少神經を狂はせる者である、是れ温熱と神經の關係から來るのであつて神經の作用は獨り身體の温熱ばかりでなく空氣の温熱からも障りを受ける假令ば熱帶地方の人は惰弱で智識が發達せぬのは空氣の温熱が神經に影響する著しき一例、次に何人にしたところで熱のある時は樂々と眠られないし、小兒などは其爲ひきつける事があるのは是れ身體內の熱が神經に影響するの一例、元來凡て此熱なるものは病の症候と見て置きますが其原因次第で之を腐敗熱、無敗熱の二ッに分けてある、傳染病は腐敗熱に屬して居る、又熱の強弱にも夫れ〳〵區別を立てゝ人體の卅七度を平温、三十八度以上を輕熱、三十九度五分以上を高熱と定めてあります、幾位高熱でも一二日で平温となるから假令神經に障りがあるとしたところで其時丈て大した害もなくて濟むが腸窒扶斯の樣に幾位早く全治するのでも二十一日間も高熱が續いては神經の作用を損するのは當然であります、腸窒扶斯は黴菌が腸壁に做衝るものであると云ふ事は前にも申上たが做衝ると其處に毒素と云ふものが生じてそれが血と共に體內に循環するが其毒素が酷く神經の毒となるので酒亂の樣になるのも熱の爲と云ふよりは此毒の爲と云ふ方が然るべきで恰度アルコールが神經を毒する爲に酒を飮むと亂暴すると同樣であります、此毒素の爲には身體の大事な蛋白質を分解されるから腸窒扶斯は唯の熱病よりは衰弱が劇しい、腸窒扶斯の爲に神經は三重の苦みを受ける即ち其一は熱、二は毒素、三は營養不足、それてあるから腸窒扶斯に罹ると全快後でもぼんやりして頭髮が脫ける是れは大抵は免れない、然し頭髮は營養の回

復と共にはえもするがぼんやりの方はなか〳〵回復しない、幾位養生しても二年位は健康の精神にならない、又回復してもどうかすると神經衰弱を起し易い、特に熱の盛な時に腦を冷したと冷さないと回復期に養生したとしないとは大層違があるスッカリ治らない中に神經を無理に使ふとか食物其他養生を怠るとかすると屹度神經を弱くして仕舞ふ、あの人は病後どうもボケたなどゝ言はるゝのは即ち夫れなのであります。

▲(七)インフルエンザ●●●●●●● 此病氣は腸窒扶斯に較べると一體に容體が輕く黴菌即ち病氣の種が違ひ熱の下り方が早いから腸窒扶斯程恐るべきものでない樣ではあるが然し此病氣には肺炎、肋膜炎なと云ふ忌な親類があり氣管支炎と云ふ附ものもあるから油斷が出來ない夫れに全治後往々神經衰弱を起すから注意せねばなりませぬ。

●結婚と精神病

醫學博士　呉秀三氏談

結婚は婦人にとつては頗る重大な問題であつて、未婚者の胸は常に結婚の二字で全部が充たされて居るし既婚者はこの結婚の爲めに生活狀態が一變して其精神に一大革命を來たすのであるから、結婚と精神病とは頗る重大なる關係があるて、婦人は其未婚者たると既婚者たるとに係らず精神病とは如何いふもので結婚とは如何いふ關係があるかと言ふことを研究して自分は固より一家の家族に對しても相當の注意と警戒をなすだけの智識がないと思はぬ不幸が起ることがあるのである、そこで此の結婚と精神病との關係を知るには先づ精神病とは如何なものであるかと言ふことを知らねばならぬ、ところが精神病と言ふことは世間で大變誤解されて居る傾きがある、精神病者則ち狂者と言ふ者は精神にのみに病氣があつて其原因も非常に悲しむべきことに出會とか、思はぬ不幸に遭遇するとか、又は著るしく精神

を苦しめるとか言ふ様な精神に刺激を與へることのみに依る様に思ふて居るが、これは全く素人考ひて精神病と言ふものはなか〳〵そんな單純なものでない、精神病と言ふものは身體全體の病氣で決して精神のみの病氣でない、從つて其原因も精神に激動を與る精神上の苦痛とか哀みとか又は心配等の爲にのみ起るものでなく身體が衰弱して居とか過度の勞働をするとか睡眠が不足であるとか、普通の病氣と同じく外部の事情から多く起つて來るもので適々精神を刺激すべきことがあつて發狂する者があるのは將に發狂すべき因緣が身體に伏在して居つたところへ精神に激動を與へたので俄に發狂するに至るのである、尤も普通の病氣でも精神上から來たるものがあると同じく精神病も亦精神上から來るものがあるのは言ふまでもない、それから普通の疾病から精神病になるのがなか〳〵少くない、殊に遺傳性の肺結核や黴毒から精神病者になるのが多く又熱病から狂者になる者も隨分ある、さて此の結婚が如何いふ譯で精神病と至大の關係があるかと言ふと、婦人は結婚に依つて身體にも精神にも非常なる變動を來たすので、其變動の結果種々の精神病を惹起するのである、假令素人の眼には狂者とは見えぬまでも確かに精神病に罹つて居るものもなか〳〵少なくないのである、元來婦人と男子と孰れが精神病に罹り易いかと言ふと、それは如何しても婦人の方が罹り易いと言はねばならぬ、その主なる原因は婦人には月經、結婚、分娩、授乳など其身體に激變を與へるものが多いから從つて其變動時期に於て精神病に罹る者が多いのである、

既に婦人は男子よりも精神病に罹ることが多いとすれば其の婦人は未婚者と既婚者と孰れに精神病者が多いかと言ふとそれは既婚者に多くして未婚者に少くない、其譯は既婚は分娩授乳など言ふ身體に激變を與へるものが多いので從つて精神病に罹るものも多いが、未婚者は斯う云ふ激變がないから比較的些少ないのである然してこの未婚者と言ふ語は我國と西

洋と大變違つて居る西洋て未婚者と言ふと假令幾歲になつても夫を持たない以上は則ち未婚者である、だから西洋の統計に依ると精神病は既婚者よりも未婚者に多くある、けれども我國で未婚者と言へば未だ婚期に達せずして夫を持たない者を言ひ既に婚期を過ぎて而かも夫を持たない者又は既に一度は夫を持ても、離婚若しくは夫の死亡の爲め獨身となつたるものを総て寡婦と言ふのであるから我國で單に未婚者と云へば西洋の未婚者とは範圍が狹いから統計上比較的精神病が些少ないのである、未婚者の中でも幼年時代には全く精神病と名附くべき程のものはないがそれでも破瓜時代になるとそろ／＼身心に變動を起してくるから之に罹る者が出來てくる、殊に婦人に取つて最も危險なのはこの破瓜時代である身體の上から言ふても少女から成女になるのであるし精神上から言ふても何も知らない無邪氣の子供から青春萌ゆるが如き處女時代に至るのであるから、この一身上の革命期に惡くすると精神病に係る者がある戀愛の爲めに發狂したり情死したりするのは多くこの破瓜時代にあるのであるから當人は固よりそれが保護者たる者も充分の注意をなさねばならぬのである破瓜時代に次て危險なのは結婚時代であるこれも身心共に一大變動を來たすので中には戀愛熱の爲めにとんでもない事件を惹起すこともあるから此の時代も亦精神病に罹り易いと言はねばならぬ未婚者と既婚者とを比較すると未婚者よりも既婚者の方に精神病が多い又有夫者と寡婦とどちらに精神病が多いかと言ふとそれは無論寡婦の方に多い、その譯は夫を持つて居る婦人は先づ順境であるが、寡婦はさうでない夫を失ふたとか又は色々の事情で終生夫が持てないとか何れにしても決して順境でないから身心共に自然に反したとが多いのでそれで如何しても精神病に罹る者が多くなるのである結婚に續て來るものは分娩であるが此分娩がなか／＼婦人の大役で身體の全部に影響を及ぼすのであるから此の分娩時に於ては特別の注意を拂はねばならぬ、此の分娩か

ら發狂するものが多くあつて隨分危險な狂者を出だすことがある中には假令一度癒つても又次の分娩に再び發狂するものあれば、分娩の前後共に何等の變つたこともなく唯だ分娩中のみ發狂して居る頗る奇妙な發狂もある、分娩の次は授乳で既に分娩に依つて嬰兒を生みたる以上はこれに授乳するのは婦人の役目て又自然的の作用てあるがこれが又身體に大なる變動を與へるのてあるから大に注意を要するのである、婦人が分娩と授乳とを繰返して居る内にだん〳〵年をとつて行くので、其の年をとつて將に老境に入らんとする境を更年と云ふこの更年期が婦人にとつて一大苦痛てある、如何な婦人ても美ならんことを欲するのは天性てあるが、その美が次第に衰へて更年期に於て遂に美の終局を告げんとするのてあるから婦人としては平然たる譯にいかない、此の時期が又隨分危險な時と言はねばならぬ云々

●トラホームの話

東京眼科病院長　井上豐太郎氏談

トラホームは大人と云はず小兒と云はず近時非常に流行し而も一と度之にかゝるときは容易に治癒することなく傳染力強くして其害實に恐るべし海外渡航者の上陸拒絶を受くるも之れが爲なり之は井上眼科院長の（朝日新聞記者に語られたる？）有益なる談話を得たれば玆に抄錄す

近來トラホームといふ一種の眼病が我國に流行跋扈するやうになつた。此病氣は人間の活動時期を侵す所の頑固な慢性病氣て、内科の肺病と眼科のトラホームと言へば殆ど好一對のものてある。トラホームは遂に失明せしめなければ退去しないと云ふ惡性の傳染病て、肺病は人間の生命を奪ふ迄は肉體を去らぬと云ふ病氣てある。

今日徵兵適齡の壯丁及學生に就てだけの統計を以て見ても、日本全國てトラホーム患者が百萬人以上と云ふ多數を占て居る、尙其以外の者を調たならば其

數は實に非常なものであらうと思ふ。况んや今日の如く流行して來た時に於ては何百萬何千萬に上るかも知れぬのである。此に於て此恐るべき傳染眼病を防禦する爲めに、國家的衞生と云ふものゝ必要が起つて來るのである。て、私は此トラホームに就ては自分が言ふのは可笑しいやうだけれども、兎も角十數年前獨逸に留學中に苦心慘憺して其研鑚に努めた積である。私が歐洲から歸つた當時に在つては、日本てはまだトラホームと云ふ名さへも知らなかつたと云ふ有様であつたが、今日は自分が歸國してから十有一年になるが、年々自分の門に來るトラホーム患者が多いやうに思はれる、惟り自分の門ばかりでは無い、大學を首めとして各專門眼科醫の所に集るトラホーム患者が年毎に増加すると云ふ有様である之を以て見ても此惡疾患たるトラホームが跋扈して居ると云ふことが慥に證明せられるのである。併し私は此の傳染病たるトラホームと云ふものは、個人衞生及公衆衞生が普及したならば人力を以て充分防禦し得られる所の疾病であると思ふ。

て、此病氣は我日本にも昔から有ッたものであらうと思はれる。其證據には昔の眼科醫が拵へた本を見ると、能く今日のトラホームから來る所の角膜炎、黑球の病として上の方から星がかゝッて來るのは非常に性が惡いとか、或は痒みがあッて涙が出るのは重いとか、ネシ〱來るのは癒り惡くて惡性であるとか云ふやうなことが書いてある。斯う云ふ所から見ると今吾々が專攻する所のトラホームの容態と能く似て居るから。恐らくは今のトラホームであッたらうと思はれる。トラホームと云ふ診斷であッた譯ては無いから確言は出來ぬが、其容態から推して見るとトラホームと能く似て居るので、隨分昔も我が眼科醫を苦しめた所の一つの病氣であると思はれるソレてトラホームの範圍であッても初期とか末期とかに依つていろ〱名を換へて呼んだ。或は黑球に來たのを眼星と云ひ、或は上眼瞼を侵した時にはボロ眼とか或はウラ眼とか或はボロ〱眼とか言つた

是は俗間に唱へた所の名であるけれども、斯う云ふやうな名稱を用ひ來たつたのである。今日トラホームと云ふのは如何なる意義か、之を我が國語に譯して見るとポロ眼と云ふ意味に能く適當して居るのである。是は偶然一致して居るのである。トラホームと云ふのは元外國の言葉であるが、今では殆ど其儘日本語みたやうになつて了つて、ポロ眼とか或は顆粒性結膜炎とか云ふよりも、寧ろトラホームと云ふ方が却て素人にも分り易いと云ふやうに今日はなつて來た。トラホームと云ふ意義を充分詮索して見ると、矢張眼を荒蕪すると云ふ意味に當るのであるから、ポロ眼と云ふのに能く適當して居る。

此トラホームと云ふ病氣は毎年大流行を來すと云ふのでは無く、多くは三年目とか或は五年目とか、恰も秋になッて暴風雨が來るが如く非常に猛烈なる勢を以て流行するやうであるが、併し又戰役後抔にも能く流行するもので、現に彼の日清戰爭の後に全國に非常に流行した實例がある。故に日露大戰役の後に於ても此疾病が勢を逞うしはしないかと想像されるのである。否既に今日は猛烈なる勢を以て全國に流行しつゝあるのである。さうして見れば今日は國民一般が衞生上の注意を要する時期であると考へる。

前言ふ如く此トラホームは三年目とか或は五年目とか或は戰役後抔に流行するけれども、又一年の中でも春とか秋とかに小流行を來たす、人生の最も愉快と思ふ時期に病勢を逞しうするのである。即ち人が快樂を行らんとする大事な時期を覗ふと云ふのが實に此病氣の忌むべき所である。又人生の一番大切な青年時期、或は是から學業を致さう、或は兵役に就て國家の爲に盡さうとか云ふやうな最も人生の大切な時期に此病氣が肉體を苦しめるのである。實に此疾病は人生の大敵であると云ふことは、既に御承知のことであらうと思ふ。

然らば此病氣は何から來るかと云ふと、方今殆ど流行語となつて居る所の黴菌が業を爲すと云ふとは、

此病毒が流行し傳染する所から明に推察せらる。人體から人體に此病氣を媒介するものは全く黴菌である。東西學者の研究の結果に見、又自分の研究成績に依つて見ても、此病氣はチブロコックスの變體したものに相違ない。又分泌物を顯微鏡で檢査して見ても、偶見る所のものは多くはチブロコックスであるどうしても、傳染病の跋扈は文明國よりも野蠻國の方が烈しいので、現に支那朝鮮などは日本抔に比べて傳染病が慥に多いのである。

私の獨逸留學中伯林大學眼科教授のヒルシスベルグと云ふ人が東洋諸國を遊歴して歸國の後にトラホーム患者に就て日本が十四プロセント、支那が四十プロセント強であると云ふことを報告された。十數年前日本は支那に比して其位少かつたが、今日は支那も朝鮮も日本も皆殆ど平均して居るであらうと思はれる。

亞非利加邊に行へと非常に頑固な惡性症狀を呈して居るトラホームが多いと云ふことで、元獨逸のケーニーグスベルグ大學の教授で今はハルレー大學の眼科教授のクントと云ふ人が、態々亞弗利加にトラホーム研究の爲に旅行したと云ふ事を私は歸國後新聞で見たことがあるが、此トラホームは埃及邊りに盛であつて、此病氣の爲に盲目になつて居る者も澤山在ると言ふことである。既に百年前に拿破侖一世が歐洲大陸の兵を率ゐて埃及に遠征を試みた時に、拿破侖の兵卒十萬人と云ふ者は一夜の内に此病氣に感染した。さう云ふやうに眼疾が陣中に跋扈した爲めに戰鬪力も減殺して遂に本國に引返さねばならぬ場合になつたと云ふ事が歴史に見えて居る。是等を以て見ても埃及には古くより此トラホームが流行して居つたものであると云ふことが分るのである。所謂埃及眼炎とか云ふ名も是から起つて來たのであらうと思はれる。今日我が日本に於てホートラムの跋扈する有様がどうも歐羅巴の歴史に近寄らんとしつゝあるので吾々は大いに之を氣遣つて居る次第である。

て此病氣は傳染流行するものであつて之が媒介をするものは黴菌であると云ふことは前にもチョット陳べた通りであるが此病氣が人體を侵したときの有樣は如何であるか之に付いて一言申述べて置かうと思ふのである（つゞく）

●大根の消化力

大根のヂアスターゼが澱粉消化上に有力なることは佐伯氏の發明によりて世に喧傳せらるゝ處なるが茲に名古屋に開業せらるゝ醫學士川原汎氏も多年此事に關し實驗研究せられ佐伯氏の補遺とも見るべき有益のことを發見せられたり左に其談片を摘記せん元來大根のヂアスターゼは蛋白質上の消化作用なれば天麩羅や刺身と同食するも効力なしとの論なりしも實驗上其然らざるを知られたり、

たとへば鮭の子を一ッ一つ離すには單に指や箸のみにては容易に離れぬものなるがこれを大根おろしの中に浸して離すときは手を勞せずして直ちに離し得べく又鮑の軟煮は先づ大根にてよく敲き而して後大根を細切にして共に煮るときは箸を以て挾み切れるまで軟かになる之によりて見れば大根の成分中には結締織を軟化或は溶解せしむる作用ありて澱粉糖化作用の如く熱に逢ふて効力を減ずるものにあらずといふ。

牛肉の硬き時牛肉を燒き用ゐるに肉が新鮮に過ぎて硬きとき二時間程食酢に浸し置けば軟らかになると均く食酢に替ゆるに大根の汁を以てせしに是も思ひの通り軟らかになりたり蓋し酸類及び亞爾加里酸には結締組織を溶解する性ありて大根にも此性を含有することを氏によりて初めて發見せられたりされば獸鳥魚肉の何れを問はず薄き片にして豫め大根汁に浸し置きて煮るときは著じるしく軟らかになるものなりと。

食してよき人と悪しき人　大根の汁を造るに卸にせず壓搾器にて搾り取るをよしとす大根おろしは食氣を亢進せしめ炎暑中などには殊に之を食して効多け

れど胃の敏鋭なる人胃病ある人胃出血の人口中及咽喉に炎氣を發せる人咳嗽及血痰を患ふる人腎臟、心臟の患者には禁物とすべし兎に角大根の食用上効用は研究すれば寸る程大なるを覺ゆといふ

●夏期の衛生

東京腦病院長後藤學士談

寒い季に於ける人體の疲勞は容易く恢復するものなれども暑氣に於ける夫れは容易に恢復せざるものなれば是からは可成たけ腦を使はぬやうにするが肝腎なり况して夏季は冬季よりも逆上し易きもの故神經衰弱の人などは別けて此邊に注意せざる可からず▲此點に於て晝寢は太だ有益のものにて一旦疲勞せし體も晝寢によりて復に舊へるものなれば人によりて晝餉を喫べて少し休んだ後一時間位の晝寢はした方が良からん▲晝寢した後誰ても大變に汗をかくが是は別に氣にかける程のとてなし強ち汗が出るとて特別に心配すてもなし殊に夏季などは汗が出ればこそ體を保ち得るなれ即ち汗が澤山に出れば出るほど體熱の薄らぐものにて汗が出なんだら迚も夏中過くされるものにあらず併し汗は出る都度に能く拭き取る可し若し其まゝに放置ば汗疹となるは誰しも知れる所なり肥滿た人や小供などは殊に注意を要す可く若し不幸汗疹に罹らば麥粉の如き無害粉末を其局部に塗附す可し併し又た▲盜汗の出る人は格別に注意を要す可く每晩引き續きて盜汗の出る人は必度體に異狀があるの故直ちに醫師の診察を受く可し▲梅雨時は腹部を冷さぬやうにするが第一廚房を清掃して且其空氣を可成乾燥せしめて黴菌の集らぬやうにするか第二靴など奇麗に磨きて空氣の乾燥した所に置かば決して黴るものでなし▲少しにても肺臟に異狀のある人は斯の季節に最も注意を要す可く溫度の激變甚だしき折柄ゆゑ風でも引込めなば病は愈よ重くなる計り▲蒸し暑いからとて病人の居る居房でも構はず戶障子を明放して外界の空氣を入れるとあり室内換氣法は晝は良けれど夜は惡るし夜中の外氣は水蒸

氣を多く含み且つ濕度の變化激しきもの故達者な人にも宜しからず病人には無論なり▲植木鉢を室内に入れ置く事は夜は良からず總べて植物は夜は人間の害になる炭酸を吐き晝は益になる酸素を吐くものなる位のヿは中學の生徒ですら知り居るヿなれど是に注意せぬ人甚だ多し緣日の晩など植木屋が焚ける石炭瓦斯濛々たる裡に散歩と稱して病人を伴れ込むなどは以ての外の事なり▲是から顏の色の惡い瘦せたヨボヨボした人は歐米に熾んに行はれて居る光線浴（或は日光浴）を採る可し砂煙の立たぬ無論空氣の淸澄な所で毎日時間を極めて日なたぼッこをするので西洋では四邊壁ばかり屋根のない家を作り（殊に硝子の屋根を作るもあり）て其中に這入り此處に毎日能因法師を極め込みて口に浴びるなり體の弱き人には必度利き目ある可し云々

●外人の日本衛生觀

過日加奈陀トロントより日本觀光の爲め來れる一醫師あり偶々都記者の一人と某所に邂逅して聞き取りし一節面白ければ左に摘錄す（都新聞）

▲個人衛生、日本人は個人々々としては實に衛生を重んずる國民たる事は誰でも首肯する事實で、其證據には齒を見ても指の爪先を見ても申分なき程淸淨に保たれて居る、此點は日本人は西洋人よりも潔僻だと申て宜敷い、

▲公共衛生、然るに公共衛生になると甚だ幼稚なるの譏を免れない、第一東京へ來てから驚いた事は道路の不完全であります、一陣の風來れば直に目も口も明けぬ程の砂塵を卷き上るから少し衛生に注意する者には堪まつたものではありません口より入り來る塵埃が如何に肺患ある者には多大の影響を與へる事でしやう、又喉頭の諸病にとりても酷だ惡結果を與へます、私は豫て噂に聞いて居た日本人の眼疾多き事は實に此等が其原因の大なるものであらうと

了解しました、

▲惡感を抱かす一事、貴國人に取りては左程意に解せぬ事らしいが我等に取りては甚だ惡感を抱く一事がある、即ち其風塵を禦ぐ爲めの惡水を道路上に撒布する事です、初めて之を貴邦に於て見て實に驚いた、と云ふのは私が偶々街上を往くと、さる家の小女が長い柄の柄杓を以て路傍の汚醜極まる溝渠から其濁水を酌みつゝ私の方へ持つて來る、什麽するのかと見て居ると遠慮もなく此れを我足許に撒いたのです、其惡臭の恐しく鼻を衝く鹽梅は實に喫驚せざるを得なかつた爾して其結果は什麽かと云へば今迄濕氣の中に養はれたバクテリヤは日光と風とを得て空中に飛散します、此れは夏季に於ける衛生に非常に有害たる事は誰でも知つて居る筈です然るに貴邦人はこれを左程に意に留めぬらしい現に法律にも習慣にも禁じてない處を見れば私共は大に怪まざるを得ないです、

▲病院の壁、私は過日鳥渡大學病院を巡覽するの榮を得ました、一二の手術場は實に清淨完備して居る事には感じましたが偖其建物の白壁が非常に汚れて居る一事です、定し數年來の物でもあらうかと推測される程汚斑點々として居ります、此れは私共の邦では見掛ない事で病院の室内は我邦では殊に吟味致します、少くとも一年に二三回は洗滌します、病院の衛生は公共の衛生に密接の關係を有して居ますから、

▲公共便所、此れも我等に多少の感を惹起させました、何故に日本人は斯の如く多くの便所を要するかと云ふ事が疑問になります、私自身の想像ですが日本人は時を定めずに飲食する故ではなからうかと思ひます云々、



中外彙報

●赤痢發生期と注意

赤痢は每年七八九の三ヶ月に猛威を逞ひ十月十一月頃に至り一時屛息するものにて黴菌は決して死滅するものにあらずこの際十二分の注意を要す

一河水井水は勿論水道の水なりとも一旦煮沸したる後にあらざれば飮用せざる事

一香の物菜ぴたし等は必ず湯冷し水にて洗ふべし

一飮食物に蠅のかゝらぬ用心が緊要なり

一便所、芥溜、手洗水及び吸込溜は常に淸潔に掃除し破損所は直に修繕を施し然る後生石灰を撒布し置くべし

一床下は充分に掃除して空氣の流通を善くし生石灰を撒布すべし

一胃カタル腸カタルを患ふる時は直に醫藥を用ひて之を治癒すべし

▲風疹の流行　春來引續き流行せる麻疹は漸次下火となりて今や僅かに名殘を止むる程なるが昨今小兒の風疹に罹れるもの多く又候この流行を見るに至れり風疹は原名をルベオラといひ俗にかざはなと稱すれども稍々念入りのものに至りては麻疹に酷似し往々麻疹なるべしとて驚くことあり然れども其原因全く相異なり二三週日の潜伏期を過ぎて前驅期に入り惡寒或は寒戰を發して體溫三十八度乃至三十八度半に昇り脉搏亦九十乃至百を算す斯くて輕度の口峽炎結膜炎、鼻加答兒を發し半日乃至二日の後發疹期に移りて最初顏面頸部等に紅疹を發し漸次全身に及ぶは麻疹と相似たれども風疹は麻疹の如く眼瞼或は舌面等粘膜に發疹することと無きを以て區別するを得概ね三四日にして褪色治癒すれども發熱の際は就褥せざる可からず又食物の注意等六ヶ敷ことは要せざるも病中は別して消化し易き物を與ふべき也と

▲暑氣と傳染病　暑氣の加はると共に傳染病其他惡疫の數增加するは自然のことながら今試みに昨年及び今年の五月中に於ける四種傳染病患者の數を比

較するに

	昨年五月中發生	今年五月中發生	昨年五月中死亡	今年五月中死亡
赤痢	一六	一一	五	三
腸窒扶斯	九五	一二五	二七	二七
猩紅熱	七	一三	一	〇
實布垤利亞	一一七	一二八	二六	一〇八

右の表に依れば赤痢を除くの外は今年の方多數なるが是れ氣候の變化不定なりしに原因し猩紅熱と實扶垤利亞とは梅雨に入ると共に空氣滋潤するを以つて其の類を減すべけれど反對に赤痢と腸窒扶斯とは梅雨に入つて其の數を加ふるが例なれば此際特に注意すること肝要なるべし

▲猫とペスト菌　栗本警視廳第三部長の談なりと聞くにペスト病の傳染媒介をなすものは最も鼠族に多きは勿論なるが猫もまた危險少からず元來猫はペストに戯るゝものと然らざるものとありて一部論者の如く絕對的にペストに感染せざるものにあらず之をペスト豫防として重寶がる如きは非常の危險なるものにて假令ペストに戯れざる猫と雖も若し菌鼠を食するときは其の糞尿中に無數のペスト菌を有するものなれば愛猫家などは此際殊に注意を要すべしと

▲醫科大學醫院の擴張　帝國醫科大學醫院に於ける外來患者は近時著しく增加するに至り且つ現在の建物の多くは二十餘年を經過したるものなれば文部省に於ては二十萬六千五百圓を投じてその增築をなすとに決定せりと

▲トラホーム流行期　流行の期節は每年三月下旬より五月下旬迄にて年一年に其勢を逞ふし日本よりの渡航者は一二等の船客迄嚴重に合衆國は檢査し上陸を拒絕すと蓋し衞生思想の乏しきによるものなれば昨今の如き砂塵のあがる時期は眼鏡を用ゐ浴槽なとにて顏面なとを洗はぬ樣注意すべきなり

▲蚊の驅除協會　此程紐育に開かれたる米國蚊族驅除協會第三回總會の席上會長ウイルリヤム、ジー、マセソン氏は開會の辭中蚊の害毒を說き米國の人口が年々減少し行くは多く此の小蟲の爲めなりと云ひ協會は各科學者並に一般の贊成を得て一致戮

力蚊の病氣を防ぐを得ば國家の爲め多幸なりと述べ斯くて蚊に關する種々の報告を爲したる後宣言書に就て討論決議したり該宣言書は次の如き意なり△合衆國に棲息する蚊の種類は百種以上あり其孵化するには三週日を要す或る蚊族は一回三四百の卵を産む事ありてマラリヤ其他の熱病の傳播を媒介し又他の病毒は多く蚊に依つて傳播せらる蚊族中危險なる熱病を傳播するもの内地に最も多くして數回人を刺す性質を有す故に不必要の動物なり恐るべき病毒なり

▲赤十字社總會　去十二日を以て總會を上野公園に開き皇后陛下親しく臨御あらせられて式を行はせ賜ひたり入京せる地方社員幾萬人の多きに上り儀式の莊嚴集會の盛大なる前古比なし當日の式終り翌日には午前九時より上野公園天神山に於て日露戰役病歿者追弔祭を施行し閑院宮妃殿下にも御臨場あらせられたまふ

▲皇后陛下よりの令旨　陛下には十二日赤十字社總會より還御の御途次芝離宮に行啓あらせられ戰役中救護事業に盡瘁せる同社の篤志看護婦人會長以下幹事及び地方支部の内石川、福岡、愛媛三縣支部會長、副會長並に松方赤十字社本社長、小澤花房副社長、橋本病院長を召させられ特に正式の拜謁を賜ひ左の優渥なる令旨を賜はれり

明治三十七八年戰役に際し赤十字社救護事業に盡力の段苦勞に存す

次て午後四時御賜宴あり　陛下にも御臨場遊ばされ特に閑院宮、同妃殿下、東伏見宮妃殿下、同若宮妃殿下、梨本宮妃殿下を御宴に召され畏くも列席の各員に御盃を賜はり種々の御下問等ありし由にて何れも其御仁慈のほど、感泣して止まざりしといふ

▲各國兵食の研究　海軍々醫總監高木博士は多年研究したる米麥配合法並に其副食物に關し歐米諸邦の軍事問題の質問に應じ海外漫遊中にて大に英米軍事社會の喝采を博せりといふ

▲岩佐侍醫の金婚式　從三位勳二等侍醫宮中顧問官にして岩佐病院長なる同氏は夫人德子氏と結婚後五

十年目に相當するを以て去月十九日上野精養軒に於て親族及知己を招待して金婚の祝宴を開きとしの事なるが岩佐氏は本年七十二歳にして夫人は本年六十六才の高齢なりといふ

▲玩具の注意　此頃歐米の玩具を模造するもの多く汽車、汽船、自働車、虎、獅子、等美くしく飾れるも何れも有毒の着色多く黄色は砒素を含む雄黄靑色は硫酸銅を含む綠錆赤色はアニリン色素等なれば小兒が之を甜むるは極めて危險なればよく〳〵注意せられたし

▲婦人と自轉車　米國にては先年まで婦人の自轉車大に流行せるも今や其害多きを覺り漸く流行廢れたりとのことなる我國にても二三年來大流行自轉車美人も多かりしが是等の人は子宮内膜炎など起すもの多く結婚後流産などするは蓋し上手になると面白半分遠乘などなすが爲めにて適度に乘れば決して害なしといふ

▲福井縣の中毒者　福井縣坂井郡にて凱旋祝賀會の際村民百七十名中百二十名の中毒者を出せり其原因は前日殺鼠劑を蕎麥粉に混じ村役場員立合ひ調製したるが田舍の事とて熱湯にてよく洗ふ規定なるに只水などに洗ひたる儘握飯を造りたるものと分明せりといふ

▲目下の流行病　感冒、呼吸器病、腸加答兒、小兒間に實扶テリヤ、山の手邊に痲疹、地方にペスト、天然痘、

▲毒うつぎの實と櫻んぼう　群馬縣勢多郡川淵村今井相藏の二男一女は何れも毒うつぎの實のうつくしきを食し何れも中毒の爲め吐血して一名は生命危しと又伊豫松山市小濱の小學校生徒七名櫻の實を食し何れも中毒し内一名は死亡せしといふ

▲睡眠遊行症　此病氣は如何なる惡事も夢の中に犯して知らずと云へる奇病にて現に芝區本芝なる油商大澤庄之助なるものは此病にて己れの妻を絞め殺さんとして果さず逃げ出して井戸に飛びこみしを引上げ只呆然として一向應答だになさゞりしが間もな

く睡眠に就き初めて眼さめて前夜のことを聞くに只何用かは知らねど醫師の許に行き就蓐したる外全く知らずといふ此等の病は遺傳性にして癲癇などの人に多しといふ

▲嬰兒の眼瞼より出產　奈良縣吉野郡某資產家の四男にして本年三月廿五日出生せしもの左の下瞼腫れ上りしにぞ水野醫學士の診察を受けしに其腫物中には一種の畸形兒包まれ頭髮手足迄具備せりと蓋し双兒の小兒の皮膚にやどりしは近頃珍らしきものなれど河本博士の說にては「テラトース」と稱し決して其例なきものにあらずといふ

▲家庭講話會　家庭に關する問題は近來大に世の注意を惹くに至りたれば益々之れが研究の爲め同會は創立せられ毎月一回帝國教育會講堂に於て開會女子大學講師高島平三郎君の（子供に關する話瀨川醫學博士及大村仁太郎氏の父母の改良、日本音樂演奏（佐藤佐久氏外數名）宮島氏のヴアイオリン演奏あり其講話は誰にても聞くことを得べく又講話をあつめて家庭講話なる機關雜誌を發行すといふ事務所は神田區表神保町三番地に設立せり

▲基督教女子青年會夏期講習會　歐米に於ける女子青年會が夏期清涼幽邃の地をトし講習會を開設するの例にならい東京市の西隅なる閑雅幽邃の青山學院に於て來月早々講習會を開き互に宗教上の眞理心靈上の修養を講じ併せて友誼增進の道を圖らんが爲め午前を講習とし午後の閑時間を娛樂に充て懇談、音樂、遠足、遊戲等に充つといふ講習料は五日分二十五錢寄宿料一日分三十五錢寢具等一切用意しありと詳細は東京麴町土手三番町の同會に照會せらるべし

▲女子園藝講習會　家庭園藝の普及を圖らんが爲め來八月一日より三週間東京神田錦町女子商業學校內に於て開設し果樹、蔬菜、花卉、園藝西洋料理の外に養蠶、養鷄、家庭、看護、禮式の數科目にして講習料は二科目迄一圓五十錢四科目迄二圓五十錢申込所は東京牛込東五軒町四十一番地の大日本婦人農藝會とす



質疑欄

●●●●質問注意 質問中診察せざれば應答し難きものは一切解答せず又解答に遲速あるは取調べの都合ある爲めと御承知を乞ふ●質問は端書にても封書にてもよろしけれど單に質問のみをわかりやすく認むる事●質問に姓名を出すことを好まざる方は匿名にてもよ差支なきも事務所へは姓名御報知の事●本號の雜誌に登載する分は凡て前月十五日迄に申込まれしものとす●總て急ぎの分は回答せず

質問者　東都一會員

問　私事毎年夏季になりますといつも脚氣にて腦みます今年も多少のきざし有之候が古くより赤豆は脚氣に効能ありとの事に候へども眞僞如何に候や併せて養生法伺上候

答　脚氣は一の風土病ですから轉地するのがよい併し食物は成可滋養分を攝取せらるべし此治療法は未だ一定せざる樣ですが脚氣專門なりと云へる坂口前氏の説を聞くに御許樣の御質問の如く赤豆は實驗上非常に効能ありといふ尤も小豆は確かに通利をよくします脚氣病に通利があしきときは爲めに衝心を起す憂ひがありますす併して氏の説によれば脚氣患者の血液中には炭酸分が頗る增加して來るもので赤豆を食べさせた患者の血中を調べて見ると炭酸分が減じて來るとのことですされば是非脚氣患者には小豆を勸めらるゝといふ營養は勿論よくし甚だしきものには赤豆ばかり食べて居ッても決して差支なしといふ脚氣は過度に足を使ふても又過度に足を使はぬも惡しッマリ足の血行の惡いものにも多いのである世間では脚氣病には朝露が藥だなどゝ朝とく跣足で運動し居るものもあるが是は大毒であるから是非止めにせねばならぬことなり

質問者　茨城　吉田香小枝子

問　去月雜誌第第百九十八號にて瀨川博士の談話中にて改良消毒器拜讀いたし候が其器の内容販賣所等委しく了知致し度何分賣店不明に付御手數ながら御通知被下度此段願上候記者曰く茨城山中照子さまの御質問も同樣の意味に付左に御承知

を乞ふ

答　右御質問に對し瀨川博士夫人に御尋ね致したる處製造發賣元は東京神田區須田町十四番地藥劑師植木雄藏氏方なりとの御回答に接し尙同氏へ詳細問合せたるに內容も委しく報導せられしも圖形の彫刻間に合はざれば御わかりにくい點もありましやうが先づ牛乳を入れたる消毒瓶を筒內に入れ水又は溫湯を瓶の肩部迄注加し而して火を爐內に盛り下扉を開き上扉を閉づれば下口より空氣流入し內壁(水流通せり)及橫管(亦水流通せり)を熱し火氣逃出の際煙筒も熱するを以て水の沸騰甚だ速かにして時間及炭費僅少なりと代價は左の通りにて運賃は先方の負擔の定めなりと

三本蒸　貳圓四十錢　四本蒸　貳圓七十五錢　六本蒸　三圓四十錢

尙消毒瓶も其蓋の構造よき爲め耐久他に比なく此瓶により哺乳器となすを得べしといふ何れも瀨川、楠、佐々木、金杉諸博士の賞賛を博したるものなりといふ代價は左の如しといふ

無度一瓶　拾貳錢　普通度劃　拾二錢　正確度劃　拾五錢

質問者　牛込一會員

問　二十七才の一婦生來壯健にて月經も大槪每二十日前後にありましたが先月の月經をしまい今月の初めより月經ともつかず少し色の付いた(薄赤)の液がありまする氣分其他身體には異常ありませんが是は如何なる故にや攝生法も伺上候

答　是は一應速かに專門家の診察を御受なさるを希望しますから見なければ適當の攝生法も申上兼ます或は子宮の內膜炎に罹られたのかもしれませぬ此病氣にも色々種類がありますが極輕症なれば試にイルリガートルと云ふものに鹽湯を入れ前を洗ッて御覽なさい硼酸がよいのです夫れても治りませぬなら早く御醫者へ御出でなさいまし

質問者　小石川一會員

問一、子宮病には夏季海水浴は如何なるものに候や
二、肋膜病のあるものは矢張り肺病患者のように海邊に轉地するがよろしきや

答一、子宮病のある婦人には海水浴は大禁物てあります二、肋膜炎は多くは肺病のさきぶれですから夫れが治療してからならば海邊の轉地は結構てす

質問者　在東京一會員

問一、月經滯りを即下する奇効藥伺上候
二、安全なる齒磨の製法御教示願ひ上候

答一、月經滯りを即下する藥は天下に一品も無之候賣藥の月經下し藥なとは全く無効に御座候
二、齒磨の製法は瀬川博士の處法には左の通りてす

沈降炭酸石灰	一〇〇、〇
炭酸マクネシア	一〇、〇
鹽酸加利末	一、〇
メンタ薄荷腦	〇、三
木炭末(桐の木炭末)	適宜

畢竟沈降炭酸石灰が基礎てす鹽酸加利末を得られぬなら重曹を御用ひなさい色着けには(カルミン)を適宜に混和なさい

質問者　胃病持主

問一、毎朝食前鹽湯をコップに一杯位飲めば胃病に効ありと聞きましたが眞實ですか
二、能く營養不良と云ふことを貴誌上其他にて伺ひますが毎日の惣菜に朝味噌汁丈は魚類晩は野菜類位にては健康を害ふてしやうか

答一、食前に鹽湯を召し上るのは胃病に多少宜しいてしやう二、健康人と病人とは自から運動も違い境遇が違いますから夫れ〳〵食品を違へねばなりません東京衛生試驗所が保健食料調理の標準として發表せられたるもの二三を擧くれば左の如し之れによりて會得せられたし

第一例　牛乳一合、味噌五匁、牛肉(鷄肉、羊肉、魚豚肉、の類)六十匁、白米四合

野菜(一)葱(にんじん、はす、うど、大根、たけのこの類)二十匁
(二)馬鈴薯(さつまいも、青芋、くわゐ、其他)貳拾匁
(三)胡瓜又は白瓜拾五匁
此營養分　蛋白質九五、七瓦　脂肪二八、〇瓦　含水炭素四五四、三瓦

第二例　雞卵二個　味噌五匁　白米四合
野菜(一)ほうれん草(芹、三つ葉、鶯菜、小松菜の類)二十匁
(二)うど(にんじん、大根、かぶら、はす、たけのこの類)十匁
(三)百合(くわゐ蕪菁の類)二十匁
魚　(一)鯛(ぼら、ぶり、なまず、馬鮫魚の類)三十匁
(二)竹麥魚(すずき、むつ、さば、いしもち、まぐろ、鰤の類)三十五匁
此營養分　蛋白質一〇一、〇瓦　脂肪一九、二瓦　含水炭素四四六、六瓦

第三例　豆腐二十五匁　莢菜豆(菜豌豆ふじ豆の類)十五匁
豆腐の皮又やきふの類參匁
比目魚(きす、あいなめ、かれい、いさき、あじ、ふな、はぜの類)二十五匁
胡麻油(豚脂、牛脂、牛酪、おりふ油の類)壹匁
雞肉(牛肉、豚肉、三十匁)味噌十匁　白米四合
此營養分　蛋白質一〇一、五瓦　脂肪一九、四瓦　含水炭素四三四、七瓦

右の標準によれば營養不良となることはないのです併し胃病のお方は可成柔らかきものを撰み能く嚙みて嚥下するが尤も必要のことでありますから付けて申上置升

質問者　麹町　H、T、子

問　私事毛が少なくて困ります薬屋にある毛はへ

藥は効能がありますか其外毛のはへる藥或は方法を至急御教へ上さい

二、鼻の頭に黒いボツ〱が出來きたなくて困りますす脂肪の多いせいてすか又は其他に譯がありますか其出來る原因及なほす法御教へ下さい

答　毛と云ふものは血液の循環によるものでありますから可成血液の循環をよくするようになさい血液をふやすには矢張り營養も充分でなければなりません市中にある毛はへ藥なども多少刺戟性をもつて居るので蓋し血液の循環を促す方法なのてすか餘りきゝめはないなうてす

昇汞アルコールなどよけれど劇藥てすから市中では容易に賣りません

二、鼻の頭に黒いぼつ〱のあるのは御若い方によくある脂肪の多いせいで出來るので其黒いのは脂肪に塵埃が付いて居るのですナフトール石鹸或は硫黄石鹸、加里石鹸の如きにて充分洗ひ重症のニキビなればナフトール硫黄を含める膏藥をおはりなさい輕症のものには硫黄軟膏位でよい明朝洗ひ落すこと（白粉は注意せぬと眞黒になる）又クンメルフエルド氏洗滌水を塗り置くもよいのです

質問者　岐阜の一會員

問一、金毛虫に刺されたとき、如何致し候へば痒ゆきを去り候や○二、大小便所に夏期臭氣止めの藥無之候や○三、牛乳の正否を撿する器械は無之候や

答　總べて蟲類にさされたるときはアンモニア水を塗るべし○大小便の臭氣止めには緑礬「ローハ」を水に溶き注ぐべし其外藥屋には「アルボース」など種々臭氣止めあり○三、牛乳の正否を撿査する器械は東京には各所の藥店にありますが神田須田町十四の植木雄藏氏方にも多分ありましやう

質問者　横濱一會員

問　天然痘流行の兆あるが爲め種痘を勸誘せられ候へども私方小見感冒なるも差支なし種痘せよとの事別段差支なきものにや伺上候

答　種痘をするのは其人の身體に病氣を植えるのでありますから感冒して熱のある處へ種痘すれば只てさへ發熱して小供などは殊にやかましいのですから一層熱度は盛んになり患者の健康を害する事は少くありませんから身體の餘り丈夫でないものは平素健康の時迄延期せねばなりませぬ

問　夏季になり汗押へに用ひるものは如何なるものよろしきか利害等伺上候

質問者　麹町一會員

答　汗押へと稱し坊間白粉にて製せしものあり是等は小供などの軟弱なる皮膚に塗るときは白粉の鉛毒は皮膚より吸收されて遂には中毒症を起すに至るされば發汗の際には清潔なる綿布にて拭ひ白粉の代りに澱粉又は石松子の粉末枯礬の粉末等と撒布することは尤もよろしとす

質問者　東都一會員

問　海水浴の適するものと海水溫浴の適するもの入浴時間時季其他の注意等伺上候

答　海浴は波濤の刺戟により恰も按摩する如き効能がありますから腺病質や神經衰弱症血行惡しき人感冒に罹り易き人常に月經少きものなどによろし之に反し虛弱者レヤウマチス肝臟病、婦人妊娠中は不適當にして溫浴の方よろしとす、

時期は七月より九月の間にて水浴日數は三週間以上をよしとす水浴度數一日一回又は二回初日は一二分間五分間を限とし長くも十分間時刻朝は七時より十一時迄の間夕は四時より六時迄の間をよしとす反動のない人は不適當の症なれば注意すべきことなり海水の溫度は三十八度以上にして強壯ならざる人は浴後パンの少量を食ふとよしとす身體の熱したるとき水浴すべからず水に入りてヒキツリを防かん爲め水浴前に腕、脚、腋の下、胸、肩背頭等を水にて濕し入るべし。飲酒して入浴するは溺死を招くものと知るべし





治庖會教場主事　安西こま子

三州味噌煮こし

▲吸物　牛尾魚

木口芋

牛尾魚は三枚におろし鹽をあて暫らくおきし後ち小骨を抜き、適宜の切肉となし、之を沸、騰湯の中へ投じ直ちに目杪子にて掬ひ出し二片づゝ椀へ岡盛りおくべし

木口芋　は、新甲州芋（馬鈴薯）の皮をむき厚さ二分程の木口切となし暫らく水の中へ放ちおきて灰汁をぬき、之を沸騰湯の中へ投じて柔らかにゆで更に之を本汁を薄くせしものにて下煮をなし三片づゝ椀へ岡盛りおくべし

三州味噌煮漉し　は沸騰湯の中へ庖刀を以て細かく刻みたる三州味噌と削りたる鰹節とを入れ、一と沸して鍋を火よりおろし、二三分間其まゝにおきて蒸らし、絹篩にてこし更に之を温めて椀に注ぐべし

但し十人前の分量は水壹升、三州八丁味噌四十目、削りたる鰹節三十目の割合とすべし

▲鉢肴　鯵たて燒

姫百合白煮

鯵たて燒　は、先づ蓼の葉を淡鹽水の中へ浸し暫らくおきし後ち、水にて洗ひ、之を細かくきざみ、新らしき淡鹽水の中へ入れ攪拌ぜおくべし、次に魚を三枚におろし、鹽を撒りかけ暫時おき、水にてザッと洗ひ、之を妻折形に金串を二本打ち、落着たる強き火にて燒き、兩面が燒けたるとき、前に準備せる蓼水を金杪子にて掬ひかけ、一寸と炙りて乾すべし

姫百合白煮　は、先づ百合根の根の處を小刀の尖端にて削り取り（瓣の離れぬやうに注意して）次に細

き金串の尖端を瓣と瓣との間へ挿し入れ、泥を出し水にて能く洗ひ、次に沸騰湯の中へ投じ、ザットゆて、目杓子にて掬ひ出し、他の鍋の中へ仰向に並べ入れ、之に百合根を被る程の水と同量の三盆砂糖と少量の鹽とを加へ美濃紙を被せ、餘り强からざる火にかけ、汁が六分程に煮詰らば、鍋を火よりおろし、百合根を取出し、平鉢の如き器に俯せ、其上より煮汁をかけおきて後ち皿に盛るべし

車海老
鯵　木口胡瓜
山葵
▲甘酢

車海老 は、頭を去り、水にて能く洗ひおき、別に鹽湯を煮立て此中へゑびを投じゆで、手早く冷水にとり十分に冷したる後ち、皮を除き、二つに背割となし腸を去り、適宜に庖丁をなすべし

鯵 は、三枚におろし、薄身を去り、小骨をぬき、鹽をあて一寸とおき、水にて洗ひ更に生酢の中へ浸しおくべし

胡瓜 は、青黑き處を剝き去り、尙ほ疣を庖刀にて削りとり、木口より打ち、一寸と鹽水に浸し、程好く水を絞り、海老と鯵と共に皿に盛り而して其上より甘酢をかけ、おろし山葵を添へて侑むべし但し甘酢は、酢と三盆砂糖と醬油又は鹽少々と合せ甘酸き加減につくりしものなり



大日本婦人衛生會記事

六月本會例會

六月二日第一土曜日午後一時半より神田區一ツ橋女子職業學校に於て例會を開きたり此日や本會總裁東伏見宮妃殿下にも御臨場あらせられたり席定まるや近頃歸朝せられたるドクトル西山信光君には氏の專門の內なる耳の話に就き富士川游君には前回の續きなる疾病の談を掛圖標本等に就き詳細

に講話せられ右終り總裁宮殿下には設けの席にて御小憩の後職業學校の造花など御買ひ上被遊上野御用掛夫人御同乘御機嫌麗しく御歸館遊ばされたり當日出席の役員には

濱尾副會長、幹事松平芳子、羽田幹事、評議員吉武、長谷川、中濱、小川、猪方、幹事高木かう子評議員宮本、三宅、岡山、幹事鳩山春子、評議員濱田、宮下、山本、幹事三浦敏子の諸氏なりき

●出征軍人家族慰問婦人會

事業報告

去三十七八年の戰役は實に國家の安危にかゝる千古未聞の大事變なりしも軍人諸氏の義勇奉公の至誠と國民一般の援護とにより未曾有の大捷を博し國光を四海に宣揚するの至りたるに有史以來の一大慶事なり同會は一婦人の團體の過ぎずと云へども出征軍人遺族慰問扶助のことは時局に關し尤も急務なるを感じ嚮に江湖諸氏の贊同を求めたるに幸ひに多數の贊助を得て今や事變の終局と共に其事業を報告し併せて贊同諸姉の厚意を謝する處なりといふ

我婦人衞生會にても濱尾、鳩山、高木氏夫人を初め他の役員會員諸氏にも或は同會の役員となり或は會員となりて頗る盡力援護せられたる諸姉多きにより茲に其事業報告を掲載することゝはなしぬ

●事業報告

自明治三十七年三月至同三十九年三月

會員總數	一千六百拾七名
贊助員	二百〇四名
團體	拾參個
寄附申込	貳千五百八拾五口

収入

月賦金	貳萬八千五百五拾圓八拾七錢

一時金　壹萬九千參百八拾貳圓六拾壹錢
雜收入　壹千四拾七圓七拾貳錢壹厘
計　四萬八千九百八拾壹圓貳拾錢壹厘

支出

各區　救助金支渡高　參萬參千九百六拾七圓參拾五錢
　　　臨時救助金支渡高　貳千六百八拾五圓
　　　慰問支費渡高　五百五拾四圓九拾五錢
　　　事務所費支渡高　壹千七百七拾五圓八拾八錢
本部　慰問費　貳千八百四拾圓四拾九錢五厘
　　　事務所費　壹千百七拾圓四拾七錢

寄附金　四千七百五拾圓
慰勞會費　壹千貳百參拾七圓參拾五錢六厘
計　四萬八千九百八拾壹圓貳拾錢壹厘

差引

慰問　壹萬六千參百七拾八名
臨時慰問　貳千百〇九名
計　壹萬八千四百八拾七名
救助　參萬七千三百七拾戶
臨時救助　壹千九百拾戶
計　參萬九千貳百八拾戶

區別／種目	會員	贊助員	正賦員數	月賦金累計	一時金累計	救助 普通	救助 臨時	慰問 普通	慰問 臨時	支渡金累計
麹町區	一六八	一	四二	四、七四一・〇〇〇	七二八・〇〇〇	一、〇六三	六七	四六三	一二五	一、二一七・五〇〇
芝區	三一	一五	三二七	二、三九〇・〇〇〇	六九〇・五〇〇	二、六九八	二三四	一、八〇〇	一二八	三、〇二一・五〇〇
麻布區	七〇	一一	一三八	一、四四〇・〇〇〇	一七九・八六〇	一、二六六	一二八	七五〇	一三三	二、一五五・一〇〇
赤坂區	一二三	二二	二〇五	二、三〇四・五〇〇	四三〇・一〇〇	一、三六六	一〇四	六八八	九七	一、五九〇・三八〇
日本橋區	一二八	二九	一七〇	一、七六三・五〇〇	四五九・〇〇〇	九〇〇	五五	一、五五四	九八	一、一二四・五〇〇
神田區	一〇八	八	一三八	一、五九一・五〇〇	三三六・〇〇〇	二、二六四	一二八	一、八七〇	八二	二、四八七・八〇〇
京橋區	一五〇	一四	一九七	二、四〇四・八〇〇	三七五・二〇〇	一、七一六	一六九	一、六三一	一三〇	二、一七五・一三五

小石川區	一一九	三	一三〇	一、九三九・〇〇〇	二四五・五〇〇	二、五二五	一三三	八六一	[illegible]	二、五七〇・八〇〇
本郷區	一〇九	一四	一七八	一、七七四・五〇〇	一六七・五〇〇	一、五七四	八〇	一、[illegible]	一三五	一、七四四・三〇〇
下谷區	六一	六	九六	九六三・九〇〇	一七四・三七〇	三、一八二	一九七	八[illegible]九	九三	三、六三八・五〇〇
四谷區	九七	三〇	一四八	一、六九一・三五〇	一〇三・八〇〇	一、三六九	五一	[illegible]	七〇	一、五一四・八〇〇
牛込區	九八	一三	一四四	一、五六七・五〇〇	一六二・三三〇	二、五九二	一九六	一、三九八	一三七	二、六九三・七一五
本所區	八七	一〇	一〇八	一、〇六五・五〇〇	二七五・〇〇〇	五、八七八	一二四	三七七	ー	四、九五九・三五〇
淺草區	六一	[illegible]	六八	九〇〇・五〇〇	四四・三二〇	四、七九四	一一九	一、八一七	九六	四、六三九・一〇〇
深川區	八九	八	一一六	一、一六三・五〇〇	二八九・五〇〇	三、七九九	六七	一、一一五	五八八	三、四六四・八〇〇
小計										三八、九八三・一八〇
本部 個人	三三	一一	二〇	九五一・三三〇	二、七四九・〇五〇	ー	ー	ー	ー	四、〇一〇・六六五
本部 團體	一三	ー	ー	ー	二三、〇七六・六九〇	ー	ー	ー	ー	
合計	一、六一七 一三個	二〇四	二、五八五	二八、五五〇・八七〇	一九、六八二・六一〇	三七、三七〇	一、九一〇	一六、三七八	二、一〇九	四二、九九三・八四五

備考 會員、贊助員、月賦口數ハ本年三月現在數ニシテ救助及慰問ハ最初ヨリノ累計ナリ
支渡金累計ハ救助金、臨時救助金、慰問費、事務所費等ヲ合計シタル累計ナリ
本表ノ外ニ雜收入金壹千四拾七圓七拾貳錢壹厘アリタリ

● 出征軍人家族慰問婦人會（一、二、三月分）

▲會員

會員總數　會員千六百十七名　贊助員二百四名

外に團體十三個

▲會計

前月分殘高　金八千九百五拾參圓四拾五錢八厘

收入金高　會費金貳百參拾四圓

雜收入　金參百九圓八拾九錢八厘

計　金九千四百九拾七圓參拾五錢六厘

支出金高　各區救助金支渡高金貳千六百八拾六圓八拾錢
各區臨時救助金支渡高百參拾五錢五拾錢
各區事務所費支渡高金拾五圓
本部慰問費　金六百圓
本部事務所費　金七拾貳圓七拾錢
寄附金　金四千七百五拾圓
計　金八千貳百六拾圓
差引殘金　金千貳百參拾七圓參拾五錢六厘

▲慰問

慰問總數　一萬六千三百七十八戸
內慰問濟　一萬六千三百七十八戸
差引慰問未濟　○
外に臨時慰問　百四十五戸

▲救助

當月救助總數　二千三百七十一戸
右救助金高　金貳千五百參拾貳圓拾貳錢
臨時救助　六十二戸
右救助金　高金壹百四拾貳圓
計　金貳千六百七拾四圓拾貳錢

▲役員

從前之通り

▲雜務

理事會に於て右の通り殘餘金の內を寄附するとに決議せり

金壹千五百圓　三笠艦遭難者遺族
金壹千圓　愛國婦人會
金五百圓　赤坂區軍人家族授産婦人會
金五百圓　牛込區同上
金五百圓　本所區同上
金貳百五拾圓　京橋區軍人幼兒保育會
金貳百圓　福川會育兒院
金壹百圓　東京孤兒院
金壹百圓　增上寺
金壹百圓　忠愛紀念

参考

▲會員及寄附金申込

區別＼種目	會員	賛助員	月賦口數	一時金
麴町區	一七八	二	四一二	七二八・〇〇〇
芝區	一三一	一五	三二七	六九〇・五〇〇
麻布區	七〇	一一	一三八	一七九・八六〇
赤坂區	一一三	二一	二〇五	四三〇・一〇〇
日本橋區	一二八	二九	一七〇	四五九・〇〇〇
神田區	一〇八	八	一三八	三三六・〇〇〇
京橋區	一五〇	一四	一九七	三七五・五〇〇
小石川區	一一九	一三	二三〇	二四五・五〇〇
本郷區	一〇九	一四	一七八	一六七・五〇〇
下谷區	六一	六	九六	一七四・三七〇
四谷區	九七	二〇	一四八	一〇三・八〇〇
牛込區	九八	一三	一四四	一六二・二二〇
本所區	八七	一〇	一〇八	二七五・〇〇〇
淺草區	六一	一一	六八	四四・三二〇
深川區	八五	八	一一六	三八五・五〇〇

專務理事

本部

個人	三	一	二〇	二、七四九・〇五〇
團體	一三			一三、〇七六・六九〇
合計	一、六一七	二〇四	二、五八五	一九、三八二・六一〇

十三個

▲救助及慰問

區別＼種目	當月救助月數	臨時救助	當月迄慰問濟月數	臨時慰問	慰問未濟月數
麴町區	九一	〇	四六二	〇	〇
芝區	一八九	一〇	一、八〇〇	三	〇
麻布區	一八三	八	七五〇	三	〇
赤坂區	一五〇	七	六八八	五	〇
日本橋區	八四	七	一、五一四	二	〇
神田區	一六七	一一	一、八五〇	二	〇
京橋區	一七五	五	一、六三二	一	〇
小石川區	一四一	一	九六一	三	〇
本郷區	一〇七	三	一、〇二〇	一	〇
下谷區	一三九	一〇	八三五	〇	〇
四谷區	九四	〇	三〇〇	〇	〇
牛込區	九八	〇	一、二五八	〇	〇
本所區	二〇一	〇	二七七	〇	〇

淺草區	九〇	○	一、八二七	○	○
深川區	二五八	○	一、二一五	一二五	○
合計	二、三七一	六二	一六、三七八	一四五	○

新潟支部會報告

五月例會

五月廿八日午後二時より右支會と婦人教育會と聯合の上女子高等小學校に於て地久節祝賀會を開きしが出席員約百二三十名來賓には八木市教育會長を始め市内の紳士及新聞記者等にして高田せん子開會の挨拶をなし次て國母陛下の御令德一般を演べ君が代を合唱し安藝耕野女史須藤鎮太郎氏の祝辭演説に引續き地久節の唱歌合唱あり終りて講談並に豫約販賣と稱する餘興あり同四時半散會したりといふ

山形支會報告

四月例會

四月十四日第二土曜日午後一時より山形市女子師範學校内に例會を開く例の如く割烹實習の後講話に移り四時頃散會せり當日の講話は左の如し

眼の衛生に就て　穗田醫學士

五月遠足會

五月二十三日午前八時より山形市を距る約一里程の元木牡丹園に遠足會を催す當日は遠路の爲めか參會者は少數なりしも時初夏の好時節なれば田園の風光殊にめでたく一日心のどかに自然の美をたのしみ四時頃歸途につきといふ

新刊書批評

村井弦齋著　（村井寬氏寄送）

增補註釋　**食道樂續篇**　春の卷　全一冊　正價金八拾錢

發兌元　東京麹町有樂町二丁目六番地　報知社出版部

弦齋氏のはしがきに曰く西洋の話しに或婦人が如何にすれば良人の愛情を增して家庭の幸福を永く保つべきやと物識に尋ねしに翁は笑ひながら「御●●●●●●●馳走なさい〳〵」と答へたりと一場の戲言とは言

へ眞に至言と云ふべし本篇は相變らず氏の流麗快活の筆により食道樂の會長なる廣瀬子爵の田園生活を骨子とし其邸園には野菜園、菓樹園、草花園、溫室、鷄舍、牧舍等あり悠々として此愉快なる生活の趣味を實現せしめ羨望せしめ是等の田園より得たる新鮮の野菜果物によりて所謂食道樂主義の應用調理法を詳細說明せられたるものなれば讀みて厭くを知らず自然愉快と共に調理法を習得すべき好資料なりされば地方人士には勿論今や上流社會を初め繁華熱閙の街を避けて田園生活を渴望するもの日に益々多きを加ふるの折柄時期に適したる良著にして卷首に弦齋主人主婦のコロタイプありて表紙は頗る意匠に富める美本なり

人生教育第一篇　儉約のすゝめ　全一册　定價貳拾錢

發行所東京本郷區駒込西片町十番地　內外出版協會

本書はコーデン氏が廣く歐米人士の例を引きて金錢の大切なることより富貴となるに必要なる訓戒を網羅して儉約の忽にすべからざることを說き人世禍福快樂の本源を理解し易く桑田常藏氏の譯述したるものなり

こども博覽會（日本の家庭臨時增刊）一册廿錢

東京市神田區表神保町二番地　同文館發行

日本の家庭雜誌はいつも材料豐富にして愛らしき子供の寫眞挿入多きは著名なり去月はこども博覽會開設の爲め本月臨時增刊として百二十頁以上の雜誌を發行してこども博覽會の記事を網羅せり

みづゑ第十二　每月一回發行　一册送本共十八錢

發行所東京小石川區關口駒井町三番地　春鳥會

本雜誌は水彩畫を以て有名なる大下藤次郎氏の主筆にして卷中美麗なる水彩畫を挿入し色彩應用論、スケッチ雜誌及各所風景等の記事あり畫學に志しあるもの若くは繪畫を習得せんとする士女には尤も適當なるものなり

●本會入會者

○小石川宮崎よし子紹介

●鹿兒島市新屋敷一八三　通常會員　湯地たね子

○事務所へ申込

●山形縣東村山郡藏增村大字矢野目　通常會員　林正子

○赤坂田村よし子紹介

●北海道根室港松本町官舍　通常會員　千葉あや子

●赤坂區青山南町五ノ四十五　通常會員　松島かね子

○相州佐藤里子紹介

●神奈川縣中郡南秦野村　通常會員　笹子かね子

○麴町青戸咲子紹介

●四谷區內藤新宿北裏町八十二　通常會員　竹山八重子

○牛込小川孝子紹介

●麻布區本村町五十一　通常會員　牛尾かね子

○神田小野熊子紹介

●下谷區坂本町三ノ十九　通常會員　喜久はる子

●本郷區弓町二ノ一福原方　通常會員　石崎しげ子

○淸國西澤好子紹介

●淸國上海兆豐路二十八　通常會員　長門久壽子

○女子職業學校敎師豐原繁尾子紹介

●麻布區霞町三番地　通常會員　廣澤てつ子

○新潟支會入會者

○幹事高橋たじ子紹介

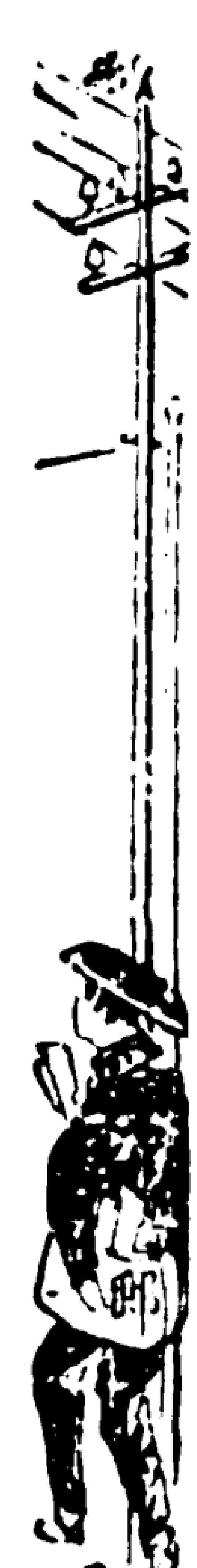
●仝市四港町一丁目　通常會員　豐島よし子

●仝市古町通八丁目　仝　石崎たせ子

●仝市上大川前通五番町　仝　齋藤せき子

○高崎支會々員姓名變更

●岡田せん子改メ　牧野せん子



轉居

▲會員諸姉御轉居の際は新舊御記入必ず事務所宛御一報相願候

●廣島縣吳市東本通一ノ二十八へ　天野知惠子

●京都府宇治郡宇治村字木幡へ　山梨しき子

●芝區金杉新濱町一へ　增田浪江子

●香川縣仲多度郡紙岡村へ　伴よし子

●大坂南區天王寺悲田町三八四七へ　中橋悅子

●赤坂區青山南町六ノ五十一へ　奨田糸子

●吳軍港和庄町字淸水上通一五三へ　藤本竹七子

●四谷區元鮫橋南町八十八へ　內山訓子

●府下豐多摩郡千駄ヶ谷村原宿へ　北代季子

●小石川區江戸川町十七へ　河津敏子

●赤坂區靈南坂町十七へ　加藤きよ子

私立大日本婦人衛生會
新潟支會規則

●第一條 本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり●第二條 當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓 特別會員毎月金參拾錢通常會員仝金貳拾錢 支會員甲毎月金拾錢乙仝金五錢●第三條入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし●第四條會費毎月拾五錢以上を納むるものには 本會衛生雜誌を配布す●第五條會費は雜誌料として一部を本會へ納め 殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす●第六條 支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す 各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條 支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし●第八條 毎年一月總會を開き支會の要務を擧行す●第九條 本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條 天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし 會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は贊成員となすべし●第十一條 一般慈善事業の贊助 天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす●第十二條 支會々員は服裝其他を質素にし集合の際は成可く綿服を着用すべし●第十三條 特に本規則に掲げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

事務所新潟市本町通十三番戸中村しけ子方

明治廿九年四月創立 新潟支會

私立大日本婦人衛生會
高崎支會規則（明治三十五年四月創立）

●第一條 當支會は大日本婦人衛生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し 衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するを目的とす●第二條 當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄居町五十番地に置く●第三條 當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す●第四條 本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し 三個月分以上の會費を添へ申込まるべし●第五條 當支會に學術其の他の裨益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志贊助員となす●第六條 當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし●第七條 支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名●第八條 役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す 又幹事評議員は役員中より會長之を指名す 但役員の任期を一個年とし再撰するを得●第九條 本會の特別贊成員を定員外の評議員とす●第十條當支會は毎月一回講話會を開き 毎年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす●第十一條 會員及贊成員の家族並に篤志贊成員は集會に參列するを得 但時宜により男子の參列は謝絕することあるべし●第十二條 本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として 一箇月金五錢を出す者とす●第十三條 總て會費の徵收は集會の席上に於てするを例とす但三箇月分以上宛前納すべし●第十四條 支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす●第十五條 會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す●第十六條 本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは 衆議に諮るものとす●第十七條 會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし●第十八條特に此規則に掲げざる者は本會の規則を準用す

●事務所 高崎市寄合町五十番地

高崎支會

私立大日本婦人衛生會

山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名評議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事評議員は會長之を撰任す役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出つべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上着及羽織は絹布を用ひるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築四通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會

宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月壹回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條 入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依頼スベシ本支會ヲ脱會又ハ本會ヲ退會セントスルトキハ其旨事務所ニ届出ツベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二月分(新タニ入會ノ者ハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又ハ知合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●第八條 服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上着及羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ●第九條 特ニ支會規則ニ掲ケザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立　事務所宇都宮市馬場町

宇都宮支會

私立大日本婦人衛生會

米澤支會規則

第一條 當會は私立大日本婦人衛生會米澤支會と稱し衛生上の研究を目的とし互に智識を交換し社會の幸福を增進するにあり

第二條 支會事務所は當時假に免許町一三六九番地猪股方に置く

第三條 當支會に會長一名副會長一名幹事五名を置く其任期は各一年とす

第四條 毎月一回(第二日曜午後一時より四時迄)講話會を開き毎年五月總會をなし役員改撰庶務會計等の報告をなす

第五條 入會は會員の紹介を經て宿所姓名に會費を添へ事務所へ申込又退會せんとする者は其旨事務所に届出べし

但し已納の會費は返附せず

第六條 當支會の會費は左の三種として特別會員毎月金參拾錢通常會員甲毎月金拾五錢乙毎月金五錢前納するものとす

但會費拾五錢以上納むる者には本會雜誌を配附す

第七條 會費は雜誌料として本會へ納め一部は支會經費に充て殘餘は銀行へ貯蓄して支會事業の資金となす

第八條 會員及員外篤志者より金品の寄贈あるときは役員協議の上特待員又は贊成員となすへし

第九條 講話の節は汎く婦人の傍聽を許す

第十條 支會々員は質素を旨とし集會の際は可成木綿服を着用する事

第十一條 特に支會則に掲けさるものは本部の會則を準用す

事務所米澤市免許町一三六九

米澤支會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





●本會徽章料左の如し

●通常會員章

第三號　メッキ製拾二錢、送費六錢

第二號　正銀製四拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章

第一號　七十錢(黒塗箱入送費九錢)

六十錢(桐箱入送費六錢)

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

●入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるへし會員章は上段記載の實價にて御購ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雑誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料なも御納付相成候へば雑誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局(東京牛込築土八幡町郵便局)宛振出あるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌進呈

本誌一部定價貳拾錢

東京市牛込區上宮比町八番地
發行所　私立大日本婦人衛生會
編輯兼發行者　東京牛込區矢來町三番地　田中鶴三郎
印刷者　東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　飯田三千太郎
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

明治三十九年六月廿一日印刷
全　年六月廿五日發行
婦人衛生雑誌第百九十九號
(毎月一回二十五日發行)